

令和7年度 人権・同和問題に関する
鹿島市民意識調査報告書

令和8年3月

鹿 島 市
鹿 島 市 教 育 委 員 会

目 次

調査概要	1
回収結果	1
調査結果	
問 1 関心のある人権問題について	2～3
問 2 県や市町村で行われている、各種啓発活動に対する人権意識について	3～5
(A) 一般社会について	
(B) あなた自身について	
問 3 「結婚式は大安の日が良い、葬式は友引はいけない」という風習について	6
問 4 結婚相手を決めるとき、家柄とか血筋を問題にする考えについて	7
問 5 「男は仕事、女は家庭」という考えについて	8
問 6 「同和問題」または「部落差別」という言葉について	9～11
問 6-1 「同和問題」または「部落差別」について知っていますか	
問 6-2 「同和問題」を知ったのは、いつ頃ですか	
問 7 同和問題をはじめて知ったきっかけについて	12～13
問 8 同和地区ができた理由について	14
問 9 同和問題について	15
問 10 部落差別または同和問題があるかについて	16
問 11 親しくしている人が、同和地区出身の人とわかった場合について	17
問 12 子どもの結婚相手が、同和地区出身の人とわかった場合について	18
問 13 同和問題を解決するために必要なことについて	19～20
問 14 人権・同和問題啓発活動について	20～21
問 15 人権・同和教育の今後の在り方について	22
問 16 人権・同和問題に関する研修会・講演会などへの参加について	23
問 17 広報かしまの「ひろげよう人権の輪」について	24
問 18 自分の人権侵害について	25
問 19 自分の人権が侵害された場合について	26
問 20 人権問題に関する法律について	27～28
あとがき	29

○ 調査概要

1 調査目的

この調査は、市民の人権・同和問題に関する意識状況を把握し、部落問題をはじめとするすべての差別をなくすため、人権教育や人権啓発に関するあらゆる人権施策の推進に資することを目的とします。

2 主な調査項目

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| (1) 関心のある人権問題について | (2) 同和問題に関する認識について |
| (3) 社会的な風習について | (4) 同和地区出身者に対する意識について |
| (5) 差別意識について | (6) 人権・同和問題に関する啓発活動について |

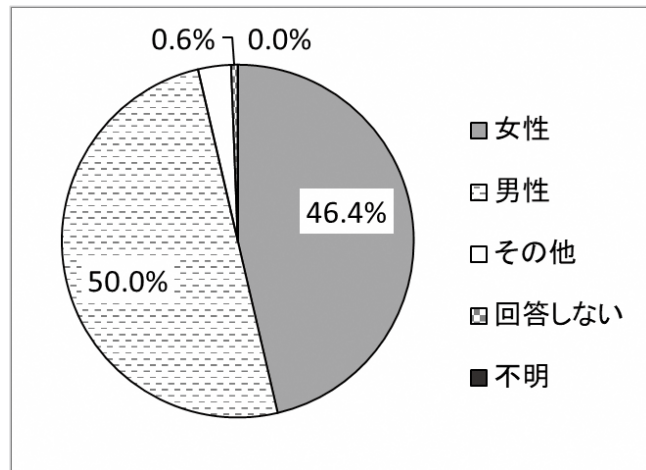
3 調査対象と調査方法

- ・調査対象 1,000人 鹿島市民の中から、18歳以上の男女を年代毎に無作為に抽出（令和7年5月1日現在）
- ・調査方法 配布は郵送、回答は郵送または回答フォームへの入力
- ・調査時期 令和7年7月1日 ~ 令和7年7月25日
- ・回収率 33.0%（330人）

○ 回収結果

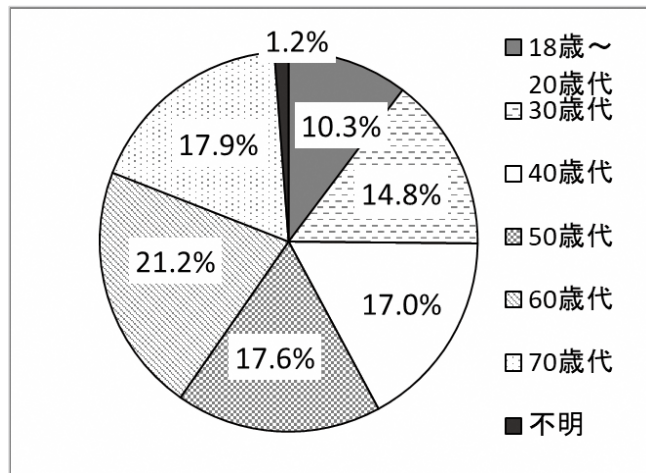
《性別》

回答項目	回答人数	割合
女性	153人	46.4%
男性	165人	50.0%
その他	10人	3.0%
回答しない	2人	0.6%
不明	0人	0.0%
計	330人	100.0%



《年代別》

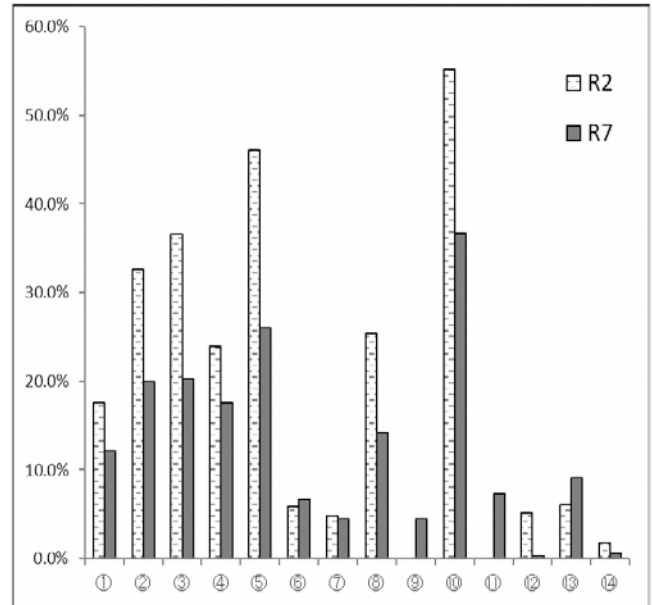
回答項目	回答人数	割合
18歳～20歳代	34人	10.3%
30歳代	49人	14.8%
40歳代	56人	17.0%
50歳代	58人	17.6%
60歳代	70人	21.2%
70歳代	59人	17.9%
不明	4人	1.2%
計	330人	100.0%



○ 調査結果 (表やグラフの20代には18~19歳を含み、70代は70代以上を含みます)

問1 日本の社会には、基本的人権にかかわる様々な問題がありますが、あなたが関心のあるもの、重要と思われるものはどれですか。(※複数回答につき、合計は100%にならない。)

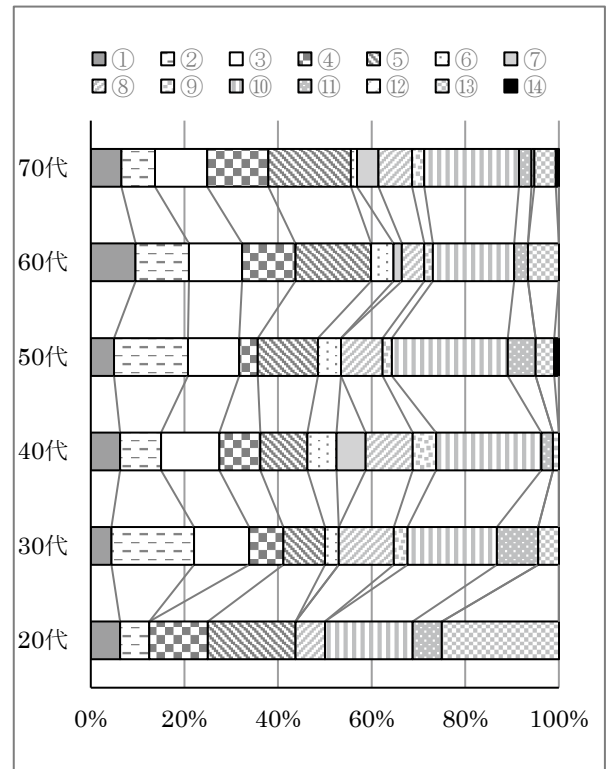
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	部落差別に関する人権問題	40	12.1%	17.6%
②	女性の人権問題	66	20.0%	32.6%
③	子どもの人権問題	67	20.3%	36.6%
④	高齢者の人権問題	58	17.6%	23.9%
⑤	障がい者の人権問題	86	26.1%	46.1%
⑥	外国人の人権問題	22	6.7%	5.9%
⑦	HIV感染者・ハンセン病患者等の人権問題	15	4.5%	4.8%
⑧	犯罪被害者とその家族の人権問題	47	14.2%	25.4%
⑨	刑を終えて出所した人とその家族の人権問題	15	4.5%	
⑩	インターネットによる人権侵害	121	36.7%	55.2%
⑪	性的マイノリティに関する人権問題	24	7.3%	
⑫	その他の人権侵害	1	0.3%	5.1%
⑬	特になし	30	9.1%	6.1%
⑭	無回答	2	0.6%	1.8%
		N= 330		



「インターネットによる人権侵害」への関心が36.7%と前回に引き続き一番高く、社会的課題となっていることがうかがえます。また、「障がい者の人権問題」「女性の人権問題」「子どもの人権問題」は前回同様高くなっています。(⑨⑪は新規追加の項目)

【年代別】 (人)

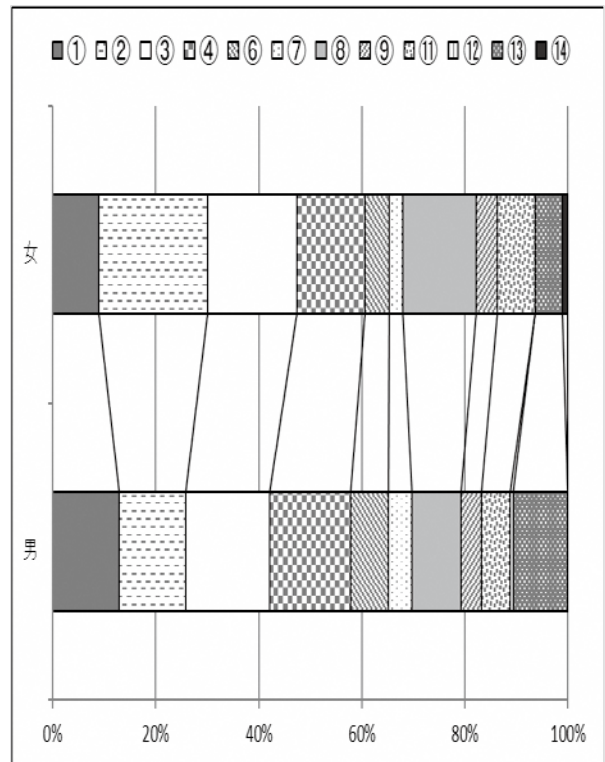
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	部落差別に関する人権問題	1	3	5	5	16	10	0
②	女性の人権問題	1	12	7	16	19	11	0
③	子どもの人権問題	0	8	10	11	19	17	2
④	高齢者の人権問題	2	5	7	4	19	20	1
⑤	障がい者の人権問題	3	6	8	13	27	27	2
⑥	外国人の人権問題	0	2	5	5	8	2	0
⑦	HIV感染者・ハンセン病患者等の人権問題	0	0	5	0	3	7	0
⑧	犯罪被害者とその家族の人権問題	1	8	8	9	8	11	2
⑨	刑を終えて出所した人とその家族の人権問題	0	2	4	2	3	4	0
⑩	インターネットによる人権侵害	3	13	18	25	29	31	2
⑪	性的マイノリティに関する人権問題	1	6	2	6	5	4	0
⑫	その他の人権侵害	0	0	0	0	0	1	0
⑬	特になし	4	3	1	4	11	7	0
⑭	無回答	0	0	0	1	0	1	0



「インターネットによる人権侵害」はすべての世代で高い関心もたれています。「女性の人権問題」は各年代ともに関心が高くなっています。「高齢者の人権問題」は、特に60代以上が高くなっていますが、若い世代の関心が薄い傾向が見られます。

【男女別】 (人)

No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	部落差別に関する人権問題	23	17	0	0
②	女性の人権問題	23	40	3	0
③	子どもの人権問題	29	33	4	1
④	高齢者の人権問題	28	25	5	0
⑤	障がい者の人権問題	43	39	3	1
⑥	外国人の人権問題	13	9	0	0
⑦	HIV感染者・ハンセン病患者等の人権問題	8	5	1	1
⑧	犯罪被害者とその家族の人権問題	17	27	3	0
⑨	刑を終えて出所した人とその家族の人権問題	7	8	0	0
⑩	インターネットによる人権侵害	52	65	3	1
⑪	性的マイノリティに関する人権問題	10	14	0	0
⑫	その他の人権侵害	1	0	0	0
⑬	特になし	19	10	1	0
⑭	無回答	0	2	0	0

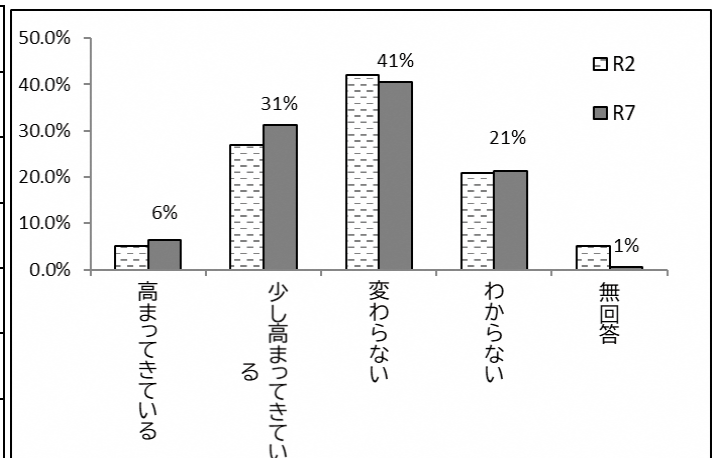


男性の関心は、「障がい者の人権問題」「インターネットによる人権侵害」「高齢者の人権問題」「子どもの人権問題」等に集まっています。女性では、「障がい者の人権問題」「インターネットによる人権侵害」「女性の人権問題」「子どもの人権問題」等ですが、全体的に男女とも共通した課題に関心が集まっています。

問2 県や市では、人権・同和問題を正しく理解していただくために、各種啓発活動を行っていますが、あなたは人権意識についてどう思いますか。

(A) 一般社会について

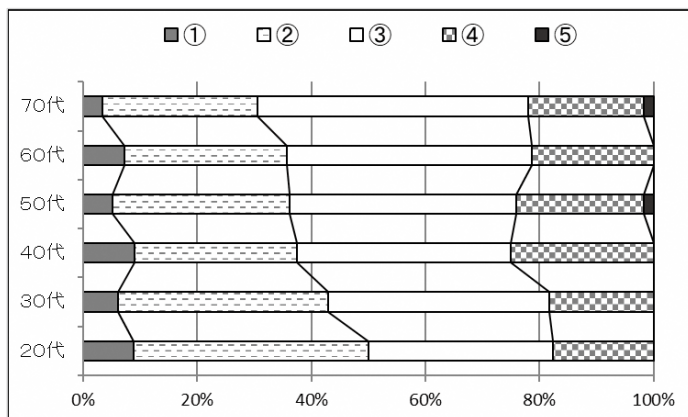
No.	回答項目	人数	R7	R2
①	高まってきている	21	6%	5.1%
②	少し高まってきている	103	31%	27.0%
③	変わらない	134	41%	42.0%
④	わからない	70	21%	20.9%
⑤	無回答	2	1%	5.1%
		N = 330	100.0%	100.0%



人権意識が「高まってきている」「少し高まってきている」を合わせた割合が、前回より4.9%増加しています。

【年代別】 (人)

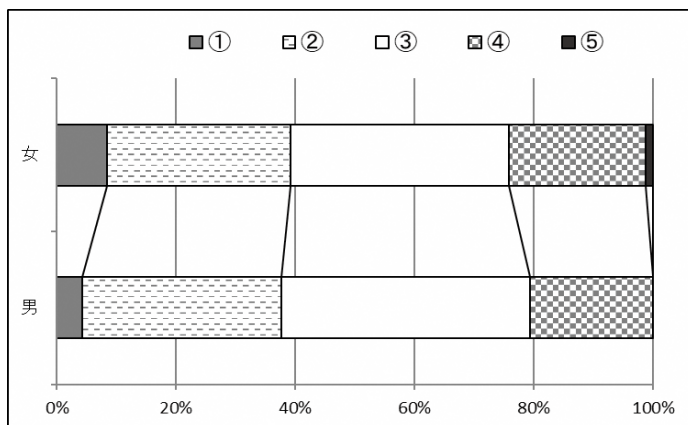
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	高まってきている	3	3	5	3	5	2	0
②	少し高まってきている	14	18	16	18	20	16	1
③	変わらない	11	19	21	23	30	28	2
④	わからない	6	9	14	13	15	12	1
⑤	無回答	0	0	0	1	0	1	0



40代以上の世代が、人権意識は「変わらない」と回答する割合がやや高い傾向にあります。

【男女別】 (人)

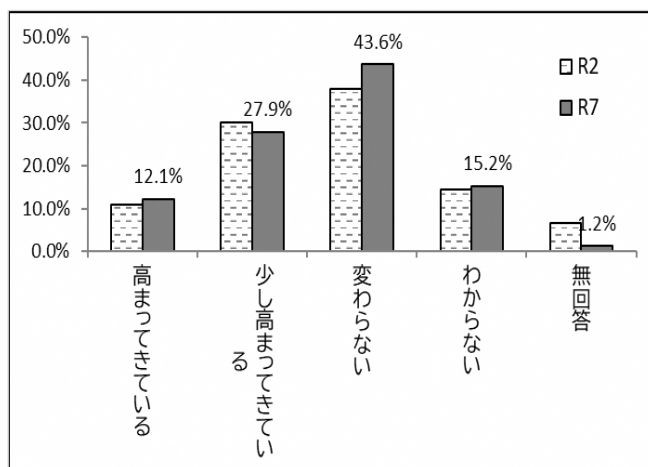
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	高まってきている	7	13	0	1
②	少し高まってきている	55	47	1	0
③	変わらない	69	56	8	1
④	わからない	34	35	1	0
⑤	無回答	0	2	0	0



男女共に「変わらない」と回答した人が一番多くなっています。男女別にみると、「高まってきている」「少し高まってきている」と回答した割合は、男性37.6%、女性39.2%で、女性がやや上回っています。

(B) あなた自身について

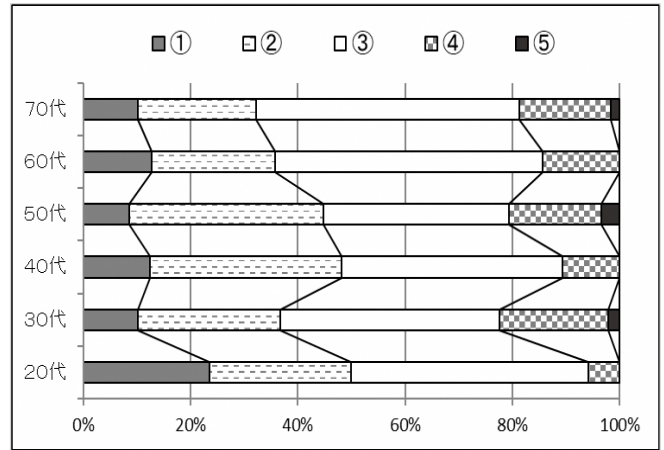
No.	回答項目	人数	R7	R2
①	高まってきている	40	12.1%	10.9%
②	少し高まってきている	92	27.9%	30.0%
③	変わらない	144	43.6%	37.9%
④	わからない	50	15.2%	14.5%
⑤	無回答	4	1.2%	6.6%
		N= 330	100.0%	100.0%



「変わらない」と回答した人が、5.7%増えています。

【年代別】 (人)

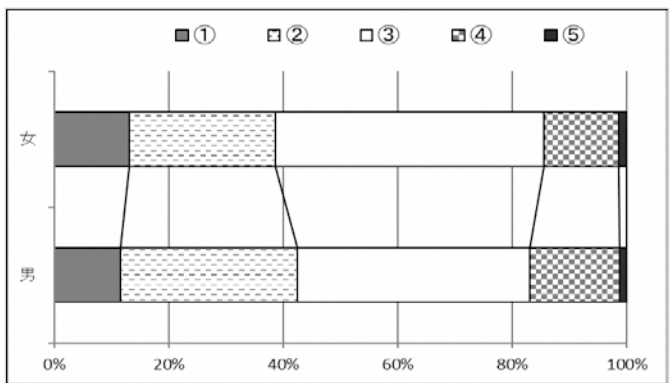
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	高まってきている	8	5	7	5	9	6	0
②	少し高まってきている	9	13	20	21	16	13	0
③	変わらない	15	20	23	20	35	29	2
④	わからない	2	10	6	10	10	10	2
⑤	無回答	0	1	0	2	0	1	0



人権意識が「高まってきている」「少し高まってきている」と感じている割合は、20代以下が50%と一番高く、70代以上が32.2%と一番低くなっています。

【男女別】 (人)

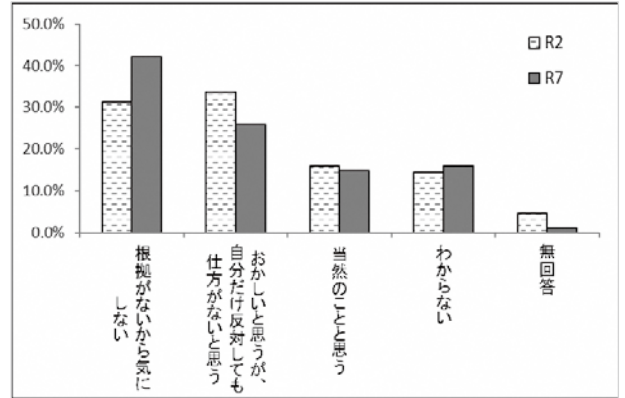
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	高まっている	19	20	1	0
②	少し高まってきている	51	39	1	1
③	変わらない	67	72	4	1
④	わからない	26	20	4	0
⑤	無回答	2	2	0	0



男女別にみると、「高まっている」「少し高まってきている」を合わせると、男性が42.4%、女性が38.5%と男性が4ポイントほど上回っています。

問3 日本の風習で、「結婚式は大安の日が良い、葬式は友引ではいけない」という考え方についてどう思いますか。

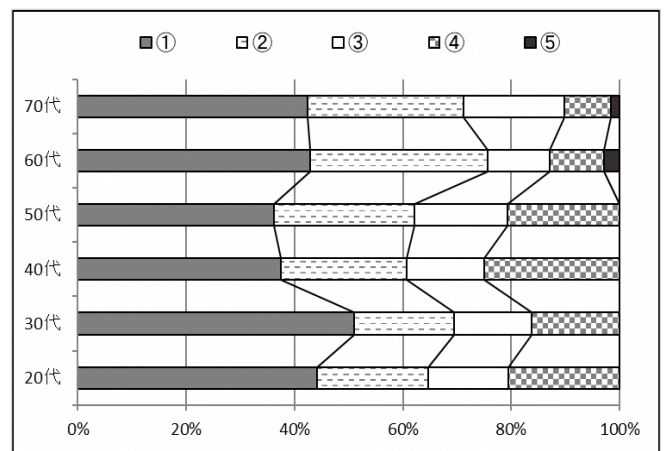
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	根拠がないから気にしない	139	42.1%	31.3%
②	おかしいが仕方がないと思う	85	25.8%	33.6%
③	当然のことと思う	49	14.8%	16.0%
④	わからない	53	16.1%	14.5%
⑤	無回答	4	1.2%	4.6%
		N= 330	100.0%	100.0%



前回の調査より「根拠がないから気にしない」が10.8ポイント増加しています。逆に「おかしいが仕方がない」と「当然のことと思う」を合わせると9ポイント減少しています。

【年代別】 (人)

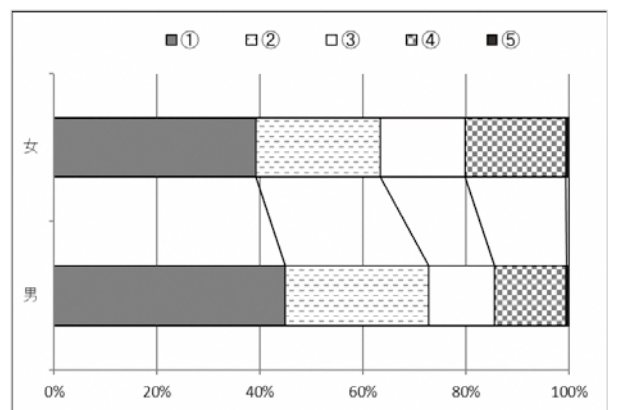
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	根拠がないから気にしない	15	25	21	21	30	25	2
②	おかしいが仕方がないと思う	7	9	13	15	23	17	1
③	当然のことと思う	5	7	8	10	8	11	0
④	わからない	7	8	14	12	7	5	0
⑤	無回答	0	0	0	0	2	1	1



「根拠がないから気にしない」という考えは、30代では51.0%と半数を超える結果となっています。他の世代も高い割合を示していますが、「おかしいが仕方がない」の割合も20%~30%の割合を占めています。

【男女別】 (人)

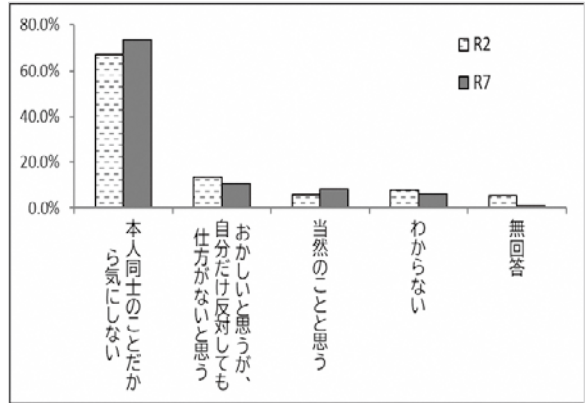
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	根拠がないから気にしない	74	60	4	1
②	おかしいが仕方がないと思う	46	37	2	0
③	当然のことと思う	21	25	2	1
④	わからない	23	30	0	0
⑤	無回答	1	1	2	0



男女別にみると、「根拠がないから気にしない」という考えは、男性が女性を5.6ポイント上回っており、「当然のことと思う」という考えは、女性が男性を3.6ポイント上回っています。

問4 結婚相手を決めるとき、家柄を問題にすることについて、あなたはどのように思いますか。

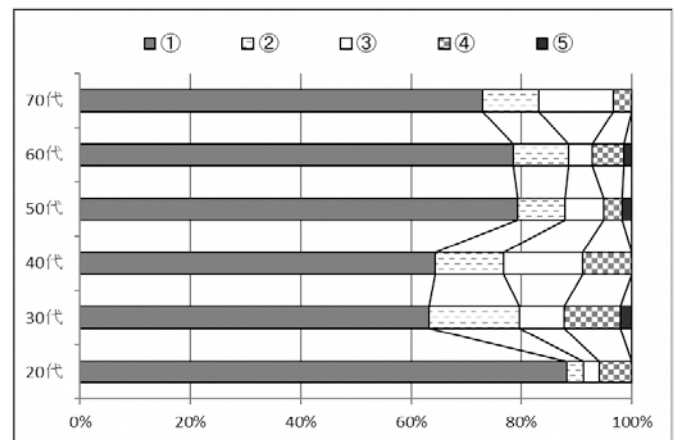
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	本人同士のことだから気にしない	243	73.6%	67.2%
②	おかしいが仕方がないと思う	35	10.6%	13.5%
③	当然のことと思う	28	8.5%	5.9%
④	わからない	21	6.4%	7.9%
⑤	無回答	3	0.9%	5.6%
		N= 330	100.0%	100.0%



前回調査と比較すると、「本人同士のことだから気にしない」が6.4ポイント増加しており、73.6%と高い割合を示しています。「おかしいが仕方がない」も2.9ポイント減少しています。

【年代別】 (人)

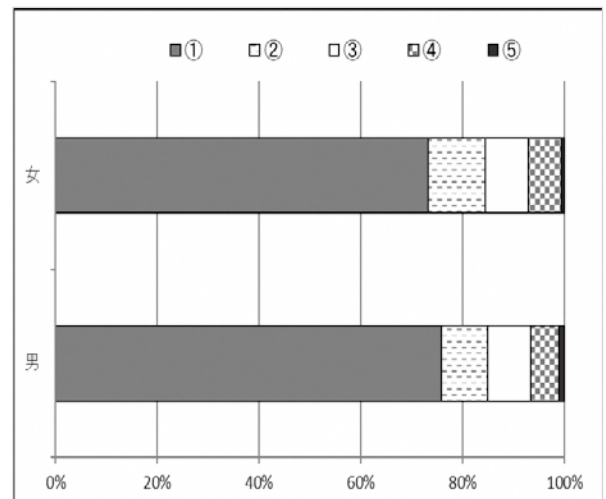
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	本人同士のことだから気にしない	30	31	36	46	55	43	2
②	おかしいが仕方がないと思う	1	8	7	5	7	6	1
③	当然のことと思う	1	4	8	4	3	8	0
④	わからない	2	5	5	2	4	2	1
⑤	無回答	0	1	0	1	1	0	0



年代別にみると、「本人同士のことだから気にしない」という考えは、全世代60%以上で、特に20代以下は88.2%と高い割合を示しています。

【男女別】 (人)

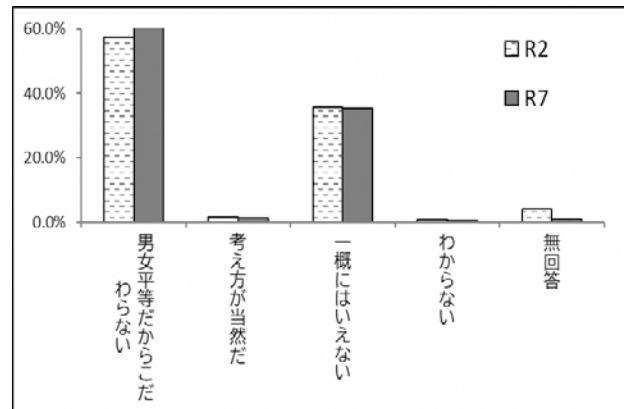
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	本人同士のことだから気にしない	125	112	5	1
②	おかしいが仕方がないと思う	15	17	3	0
③	当然のことと思う	14	13	0	1
④	わからない	9	10	2	0
⑤	無回答	2	1	0	0



「本人同士のことだから気にしない」という考えは、男性75.8%、女性73.2%と、男女別で割合はあまり変わらない傾向にあります。

問5 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

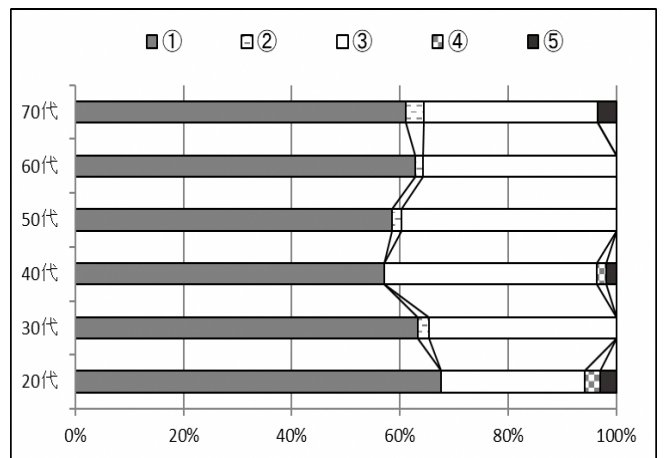
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	男女平等だからこだわらない	202	61.2%	57.3%
②	考え方が当然だ	5	1.5%	1.8%
③	一概にはいえない	117	35.5%	35.6%
④	わからない	2	0.6%	1.0%
⑤	無回答	4	1.2%	4.3%
		N= 330	100.0%	100.0%



「男女平等だからこだわらない」については、前回より3.9ポイント増え61.2%になっています。

【年代別】 (人)

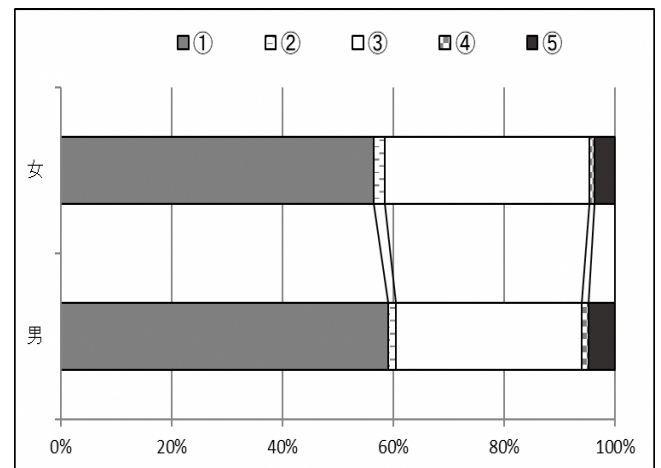
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	男女平等だからこだわらない	23	31	32	34	44	36	2
②	考え方が当然だ	0	1	0	1	1	2	0
③	一概にはいえない	9	17	22	23	25	19	2
④	わからない	1	0	1	0	0	0	0
⑤	無回答	1	0	1	0	0	2	0



どの世代も半数以上が「男女平等だからこだわらない」と回答しています。特に、20代以下が最も高く67.6%で、30代が63.3%が続いています。

【男女別】 (人)

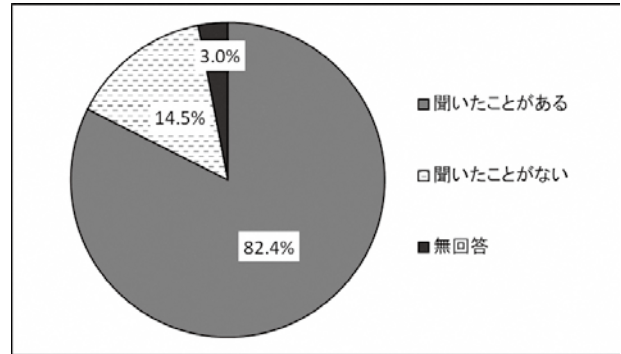
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	男女平等だからこだわらない	107	89	5	1
②	考え方が当然だ	4	1	0	0
③	一概にはいえない	50	62	4	1
④	わからない	1	1	0	0
⑤	無回答	3	0	1	0



「男女平等だからこだわらない」という考えは、男性64.8%、女性58.2%で、男性が女性を6.6ポイント上回っています。「一概にはいえない」は男性30.3%、女性40.5%で、女性が男性を10.2ポイント上回っています。

問6 「同和問題」または「部落差別」という言葉を聞いたことがありますか。

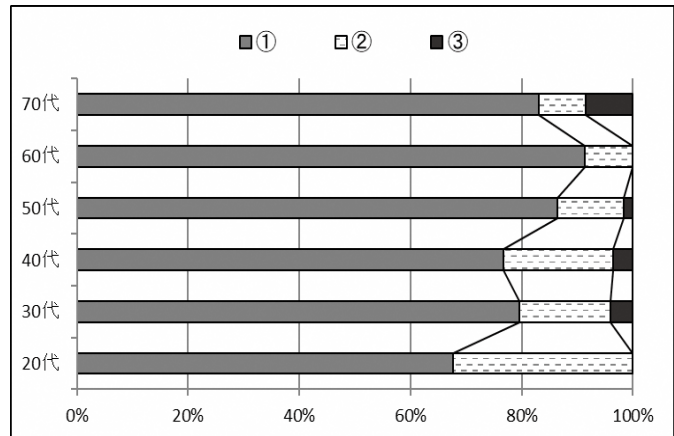
No.	回答項目	回答人数	割合
①	聞いたことがある	272	82.4%
②	聞いたことがない	48	14.5%
③	無回答	10	3.0%
		N= 330	100.0%



82.4%が「同和問題」または「部落差別」という言葉を聞いたことが「ある」と回答しています。ただ、14.5%が聞いたことが「ない」と回答しています。

【年代別】 (人)

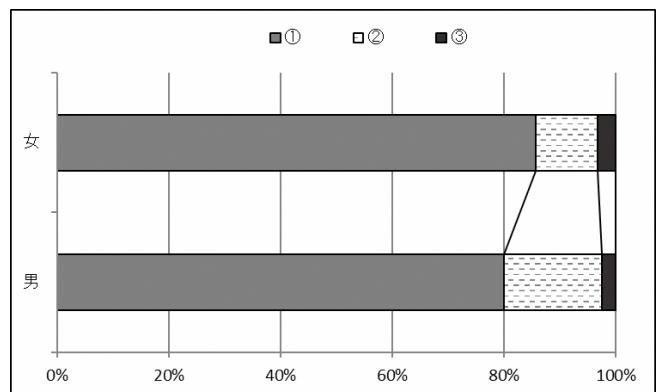
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	聞いたことがある	23	39	43	51	63	49	4
②	聞いたことがない	11	8	11	7	6	5	0
③	無回答	0	2	2	1	0	5	0



「聞いたことがある」は20代以下で67.6%。それ以外の年代は76~91%が聞いたことが「ある」と回答しており、20代以下との差が大きいことがうかがえます。

【男女別】 (人)

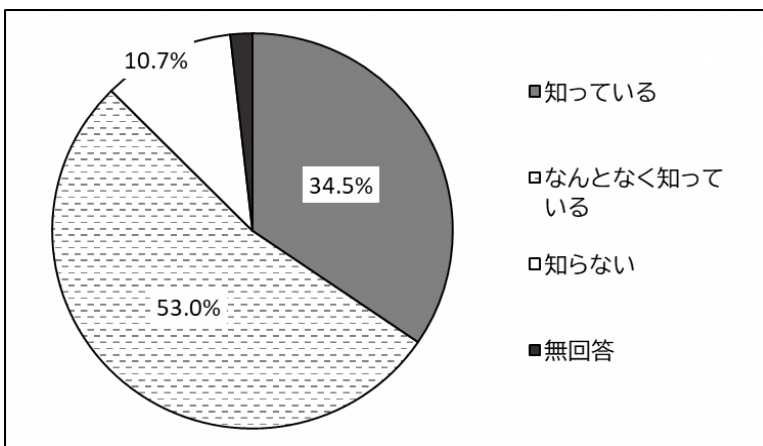
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	聞いたことがある	132	131	7	2
②	聞いたことがない	29	17	2	0
③	無回答	4	5	1	0



「聞いたことがある」について男性が80.0%、女性が85.6%で女性が5.6ポイント上回っています。

問6-1 あなたは、「同和問題」または「部落差別」といわれるものがどういうものか知っていますか。

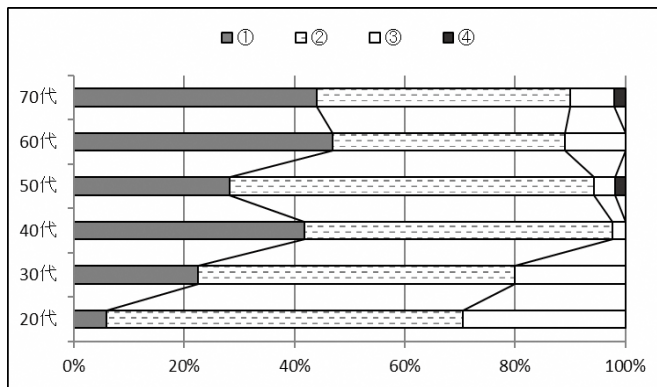
No.	回答項目	回答人数	割合
①	知っている	97	34.5%
②	なんとなく知っている	149	53.0%
③	知らない	30	10.7%
④	無回答	5	1.8%
N=		281	100.0%



「同和問題」または「部落差別」について、内容を知っているとの回答は34.5%でした。6割以上が「なんとなく知っている」か「知らない」と回答しています。

【年代別】 (人)

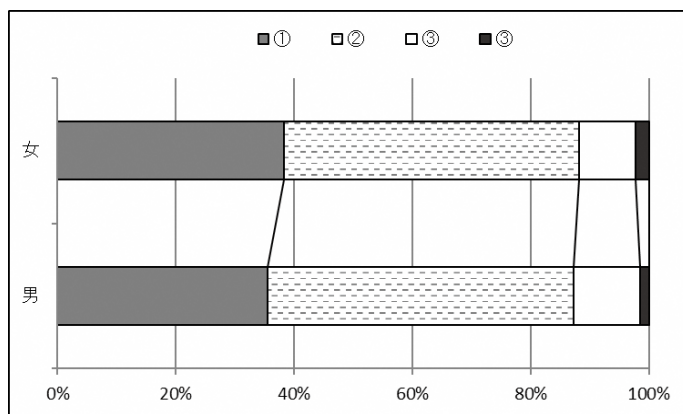
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	知っている	1	9	19	15	30	23	0
②	なんとなく知っている	11	24	24	35	28	25	2
③	知らない	5	8	1	2	7	5	2
④	無回答	0	1	1	1	0	2	0



「知っている」については、20代以下が顕著に少ない結果となっています。また、20代以下と30代の「知らない」が他の年代より多くなっています。

【男女別】 (人)

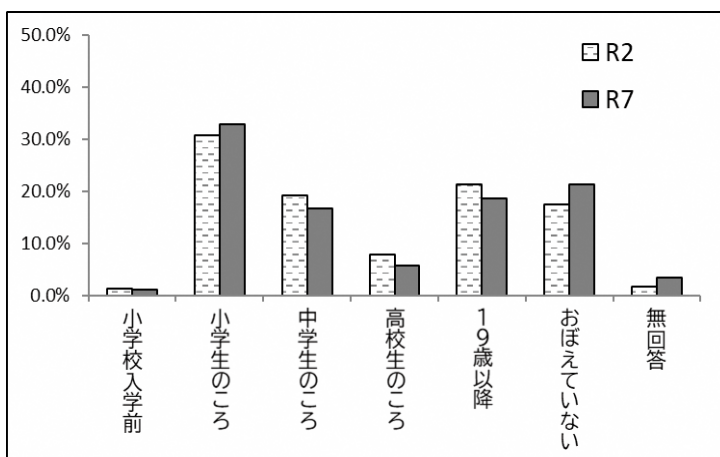
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	知っている	50	52	1	0
②	なんとなく知っている	73	68	6	2
③	知らない	16	13	1	0
④	無回答	2	3	0	0



「知っている」について、男性35.5%、女性38.2%で、女性が2.7ポイント上回っています。

問6-2 「同和問題」をはじめて知ったのは、いつ頃ですか。

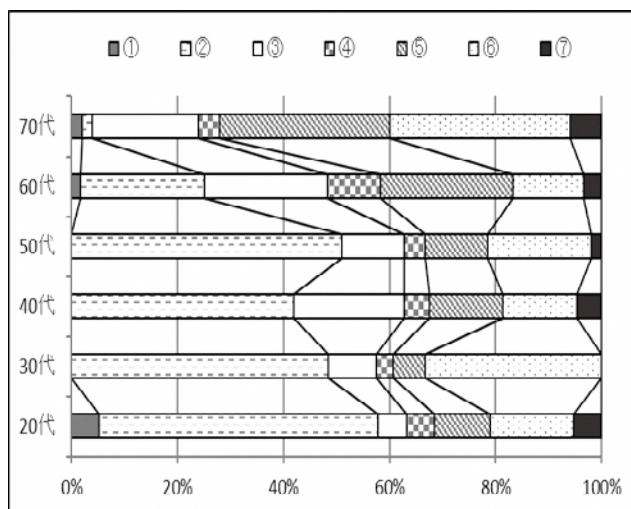
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	小学校入学前	3	1.2%	1.3%
②	小学生のころ	85	32.9%	30.8%
③	中学生のころ	43	16.7%	19.2%
④	高校生のころ	15	5.8%	7.9%
⑤	19歳以降	48	18.6%	21.4%
⑥	おぼえていない	55	21.3%	17.6%
⑦	無回答	9	3.5%	1.9%
	N=	258	100.0%	100.0%



同和問題をはじめて知ったのは、「小学生のころ」が32.9%と前回より2.1ポイント増加しています。21.3%の人は「おぼえていない」と答えています。

【年代別】 (人)

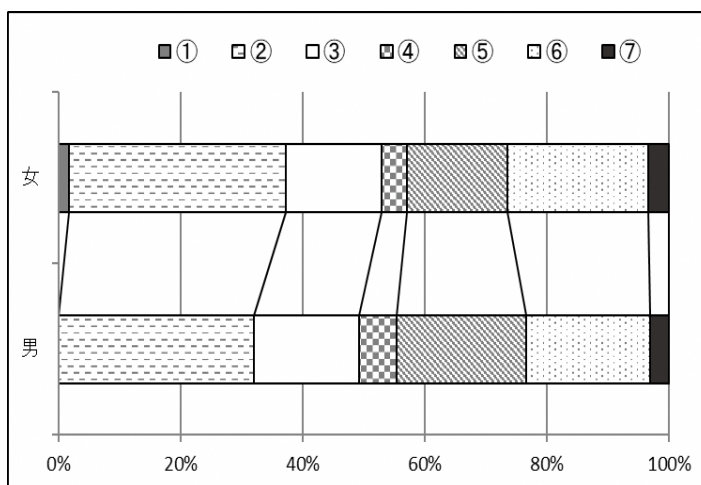
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	小学校入学前	1	0	0	0	1	1	0
②	小学生のころ	10	16	18	26	14	1	0
③	中学生のころ	1	3	9	6	14	10	0
④	高校生のころ	1	1	2	2	6	2	1
⑤	19歳以降	2	2	6	6	15	16	1
⑥	おぼえていない	3	11	6	10	8	17	0
⑦	無回答	1	0	2	1	2	3	0



小学生や中学生の頃にはじめて知ったと答える人が20代から50代では、ほぼ6割を超えています。60代、70代では「19歳以降」と答えている割合が高くなっています。

【男女別】 (人)

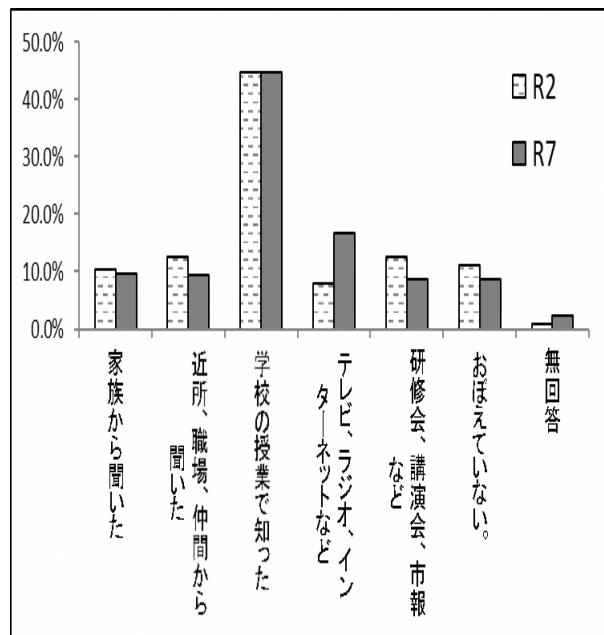
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	小学校入学前	0	2	0	0
②	小学生のころ	41	43	0	1
③	中学生のころ	22	19	2	0
④	高校生のころ	8	5	2	0
⑤	19歳以降	27	20	1	0
⑥	覚えていない	26	28	1	0
⑦	無回答	4	4	0	1



「小中学生のころ」が男性32.0%、女性35.5%と3.5ポイントの若干の差はありますが、全体的に男女別の差はあまり見られません。

問7 「同和問題」をはじめて知ったきっかけは、何からですか。

No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	家族から聞いた	25	9.7%	10.4%
②	近所、職場、仲間から聞いた	24	9.3%	12.6%
③	学校の授業で知った	115	44.7%	44.7%
④	テレビ、ラジオ、インターネットなど	43	16.7%	7.9%
⑤	研修会、講演会、市報など	22	8.6%	12.6%
⑥	おぼえていない。	22	8.6%	11.0%
⑦	無回答	6	2.3%	0.9%
		N= 257	100.0%	100.0%

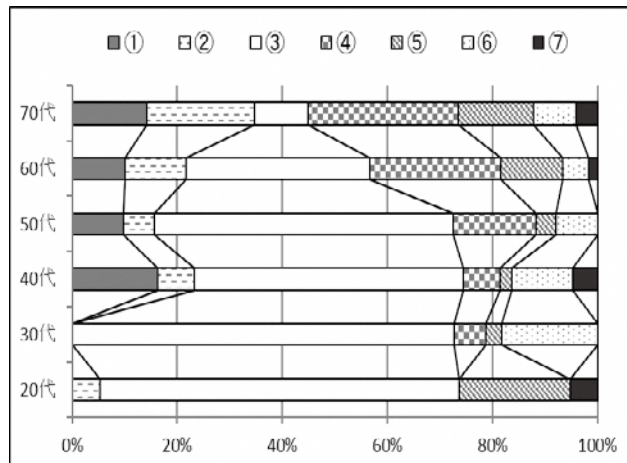


同和問題についてはじめて知ったきっかけは、「学校の授業」が44.7%と半数近くになっています。「テレビ、ラジオ、インターネットなど」が16.7%で、前回より8.8ポイント増加しました。

【年代別】

(人)

No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	家族から聞いた	0	0	7	5	6	7	0
②	近所、職場、仲間から聞いた	1	0	3	3	7	10	0
③	学校の授業で知った	13	24	22	29	21	5	1
④	テレビ、ラジオ、インターネットなど	0	2	3	8	15	14	1
⑤	研修会、講演会、市報など	4	1	1	2	7	7	0
⑥	おぼえていない。	0	6	5	4	3	4	0
⑦	無回答	1	0	2	0	1	2	0

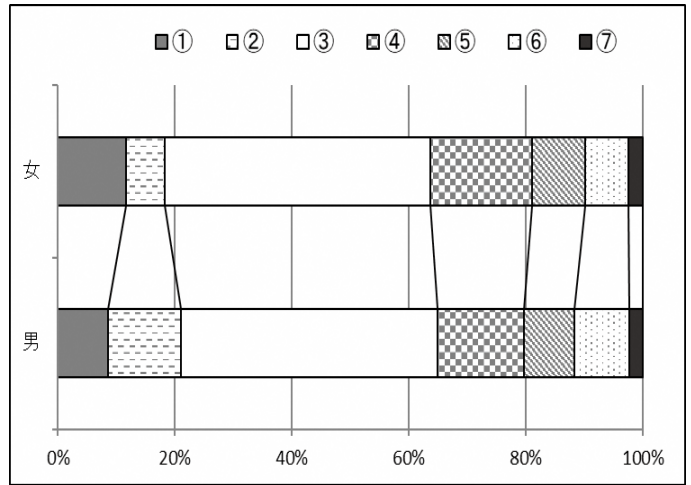


「学校の授業」は、20代以下と30代のほぼ7割を最高に年代が上がるにつれ割合が少なくなり、70代以上は、10.2%です。70代以上だけ、最も割合が高いのが「テレビ、ラジオ、インターネットなど」で28.6%、次に「近所、職場、仲間」が20.4%となっています。

【男女別】

(人)

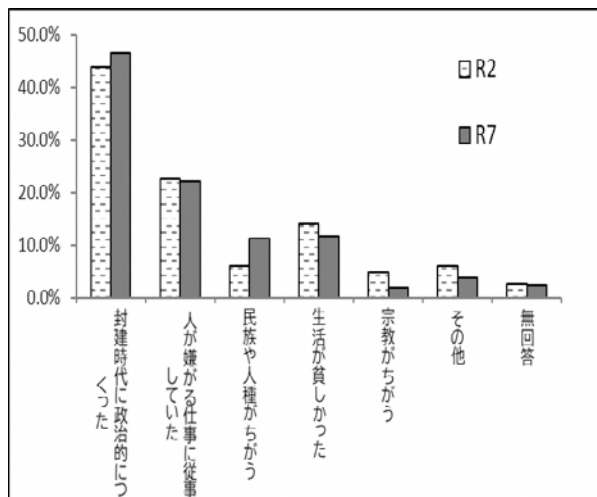
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	家族から聞いた	11	14	0	0
②	近所、職場、仲間から聞いた	16	8	0	0
③	学校の授業で知った	56	55	3	1
④	テレビ、ラジオ、インターネットなど	19	21	3	0
⑤	研修会、講演会、市報など	11	11	0	0
⑥	おぼえていない。	12	9	0	1
⑦	無回答	3	3	0	0



男女別ではともに「学校の授業」がもっとも割合が高く、男性43.7%、女性45.4%で、次に「テレビ、ラジオ、インターネットなど」で男性14.8%、女性17.3%となっています。

問8 同和地区は、どういう理由でできたとお考えですか。

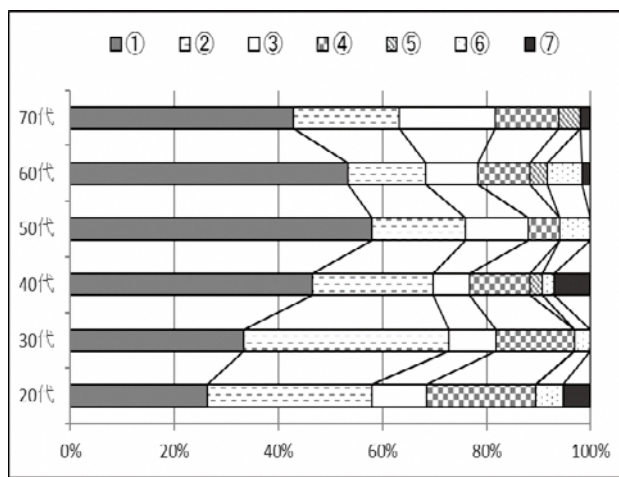
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	封建時代に政治的につくった	119	46.5%	44.0%
②	人が嫌がる仕事に従事していた	57	22.3%	22.6%
③	民族や人種がちがう	29	11.3%	6.0%
④	生活が貧しかった	30	11.7%	14.2%
⑤	宗教がちがう	5	2.0%	4.7%
⑥	その他	10	3.9%	6.0%
⑦	無回答	6	2.3%	2.5%
		N = 256	100.0%	100.0%



同和地区ができた理由については、「封建時代に政治的につくった」が46.5%で最も多くなっています。次いで「人が嫌がる仕事に従事していた」が22.3%と続いています。

【年代別】 (人)

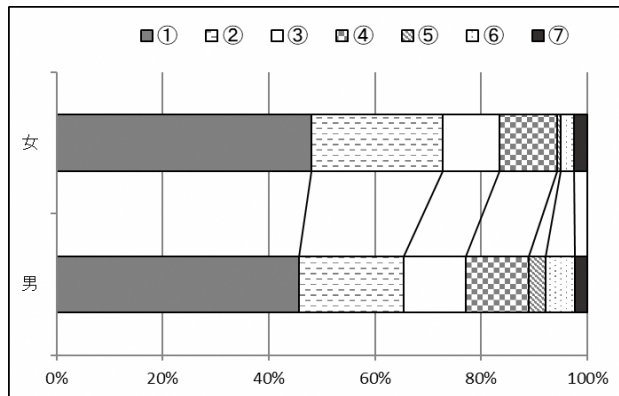
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	封建時代に政治的につくった	5	11	20	29	32	21	1
②	人が嫌がる仕事に従事していた	6	13	10	9	9	10	0
③	民族や人種がちがう	2	3	3	6	6	9	0
④	生活が貧しかった	4	5	5	3	6	6	1
⑤	宗教がちがう	0	0	1	0	2	2	0
⑥	その他	1	1	1	3	4	0	0
⑦	無回答	1	0	3	0	1	1	0



「封建時代に政治的につくった」が40代以上の世代で最も割合が高く、20代、30代は「人が嫌がる仕事に従事していた」が最も割合が高くなっています。

【男女別】 (人)

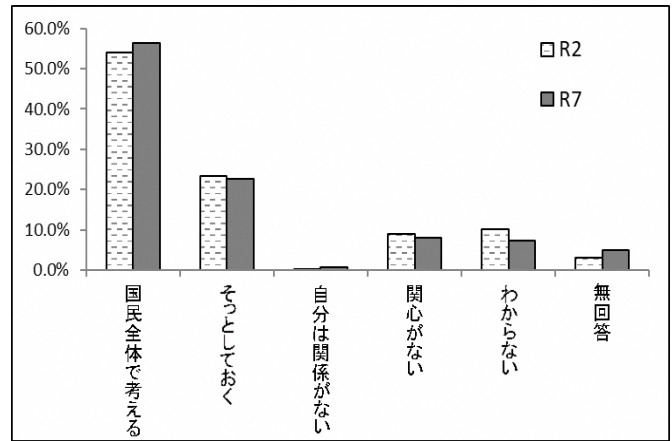
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	封建時代に政治的につくった	58	58	2	1
②	人が嫌がる仕事に従事していた	25	30	2	0
③	民族や人種がちがう	15	13	0	1
④	生活が貧しかった	15	13	2	0
⑤	宗教がちがう	4	1	0	0
⑥	その他	7	3	0	0
⑦	無回答	3	3	0	0



男女とも「封建時代に政治的につくった」が最も高く4割を超えています。次に「人が嫌がる仕事に従事していた」が続きます。全体的に男女別の差はあまり見られません。

問9 同和問題について、どうお考えですか。

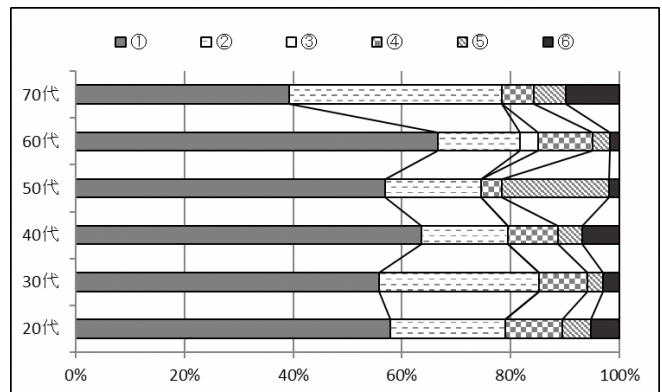
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	国民全体で考える	147	56.3%	54.1%
②	そっとしておく	59	22.6%	23.3%
③	自分は関係がない	2	0.8%	0.3%
④	関心がない	21	8.0%	9.1%
⑤	わからない	19	7.3%	10.1%
⑥	無回答	13	5.0%	3.1%
		N= 261	100.0%	100.0%



同和問題についての考え方は、「国民全体で考える」と答えた人が56.3%と半数を超えており、前回より2.2ポイント増えています。「そっとしておく」は22.6%となっていて、前回より0.7ポイント減っています。きちんと考えなければいけない問題である、と捉えている人が増えていることがうかがえます。

【年代別】 (人)

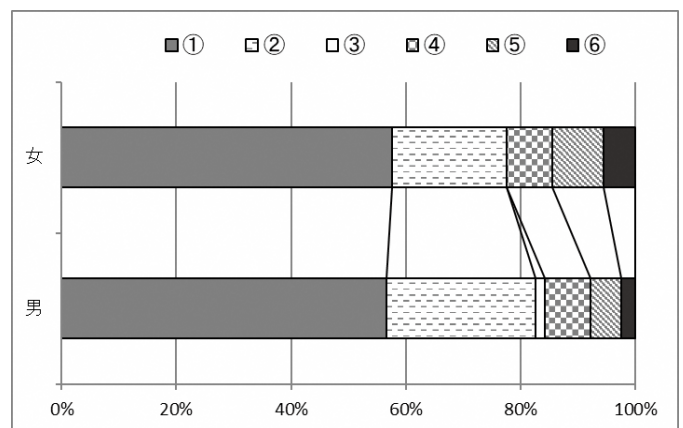
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	国民全体で考える	11	19	28	29	40	20	0
②	そっとしておく	4	10	7	9	9	20	0
③	自分は関係がない	0	0	0	0	2	0	0
④	関心がない	2	3	4	2	6	3	1
⑤	わからない	1	1	2	10	2	3	0
⑥	無回答	1	1	3	1	1	5	1



世代別でも「国民全体で考える」と答えた人が一番多く、70代以上が39.2%、60代以下は、どの世代もほぼ6割となっています。「そっとしておく」という考えは、70代以上が39.2%と、他の世代より高くなっています。

【男女別】 (人)

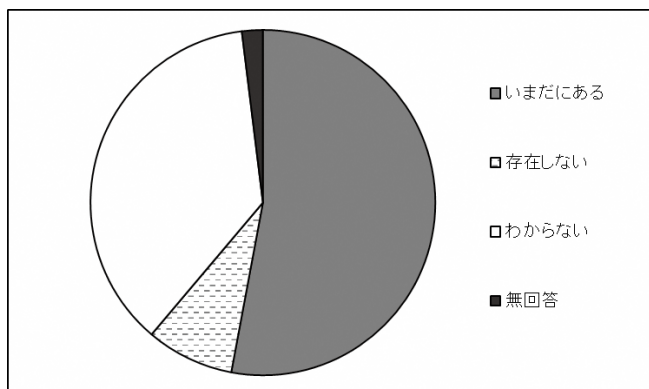
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	国民全体で考える	72	72	3	0
②	そっとしておく	33	25	1	0
③	自分は関係がない	2	0	0	0
④	関心がない	10	10	1	0
⑤	わからない	7	11	0	1
⑥	無回答	3	7	2	1



「国民全体で考える」は男性56.7%、女性57.6%とほぼ同じ傾向ですが、「そっとしておく」は男性26.0%、女性20.0%と男性の割合が高くなっています。

問10 あなたは、今でも「部落差別」または「同和問題」があると思いますか。

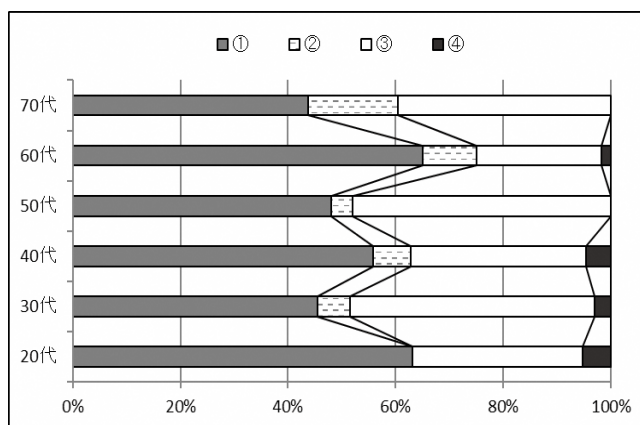
No.	回答項目	回答人数	割合
①	いまだにある	135	52.9%
②	存在しない	21	8.2%
③	わからない	94	36.9%
④	無回答	5	2.0%
		N= 255	100.0%



「部落差別」または「同和問題」が「いまだにある」との回答が52.9%と半数を超えています。

【年代別】 (人)

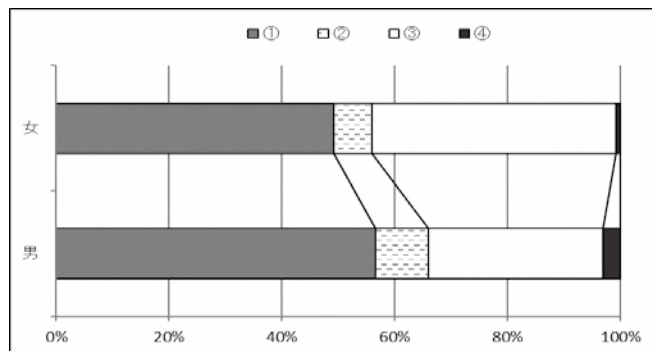
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	いまだにある	12	15	24	24	39	21	0
②	存在しない	0	2	3	2	6	8	0
③	わからない	6	15	14	24	14	19	2
④	無回答	1	1	2	0	1	0	0



「いまだにある」との回答は、すべての世代で40%を超えており、60代が一番多く、65.0%です。

【男女別】 (人)

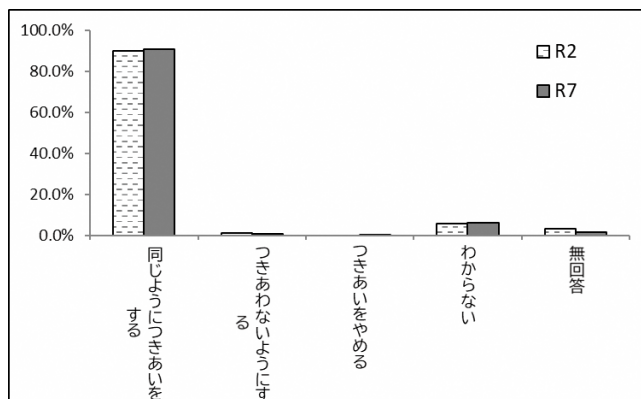
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	いまだにある	73	58	3	1
②	存在しない	12	8	0	1
③	わからない	40	51	3	0
④	無回答	4	1	0	0



「いまだにある」との回答は、男性56.6%、女性49.1%となっています。

問11 あなたが親しくしている人が、同和地区出身の人とわかった場合、どうされますか。

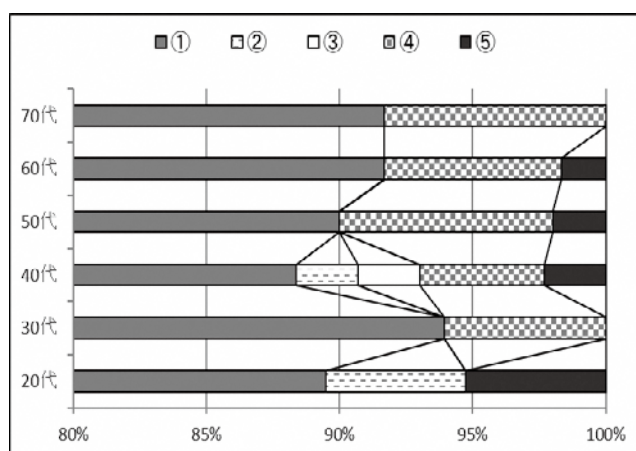
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	同じようにつきあいをする	232	91.0%	89.9%
②	つきあわないようにする	2	0.8%	1.3%
③	つきあいをやめる	1	0.4%	0.0%
④	わからない	16	6.3%	5.7%
⑤	無回答	4	1.6%	3.1%
		N= 255	100.0%	100.0%



日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身の人とわかった時どうするかについては、91.0%の人が「同じようにつきあう」と答えています。市民の9割は差別なくつきあうとしていることがうかがえます。

【年代別】 (人)

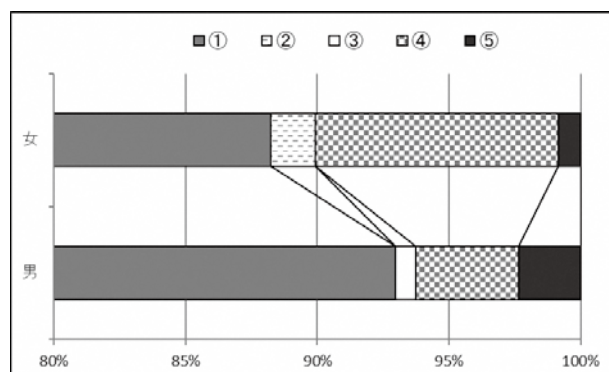
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	同じようにつきあいをする	17	31	38	45	55	44	2
②	つきあわないようにする	1	0	1	0	0	0	0
③	つきあいをやめる	0	0	1	0	0	0	0
④	わからない	0	2	2	4	4	4	0
⑤	無回答	1	0	1	1	1	0	0



「同じようにつきあう」との回答は、どの世代もほぼ9割です。

【男女別】 (人)

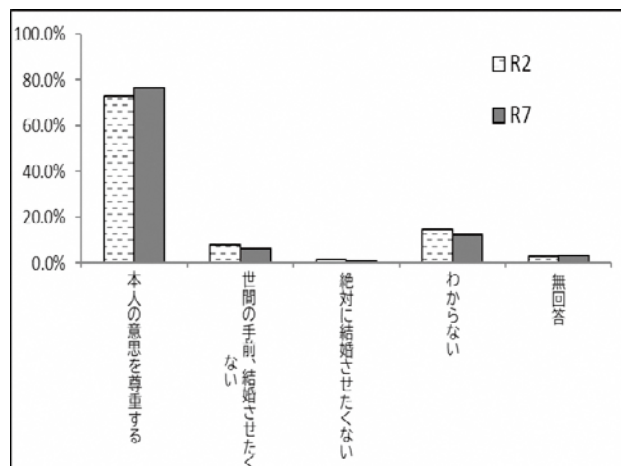
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	同じようにつきあいをする	119	105	6	2
②	つきあわないようにする	0	2	0	0
③	つきあいをやめる	1	0	0	0
④	わからない	5	11	0	0
⑤	無回答	3	1	0	0



男女別にみると、男性では93.0%、女性では88.2%の人が「同じようにつきあう」と答え、男性が4.8ポイント上回っています。

問12 もし、あなたのお子さんの結婚相手が同和地区出身の人とわかった場合、どうされますか。

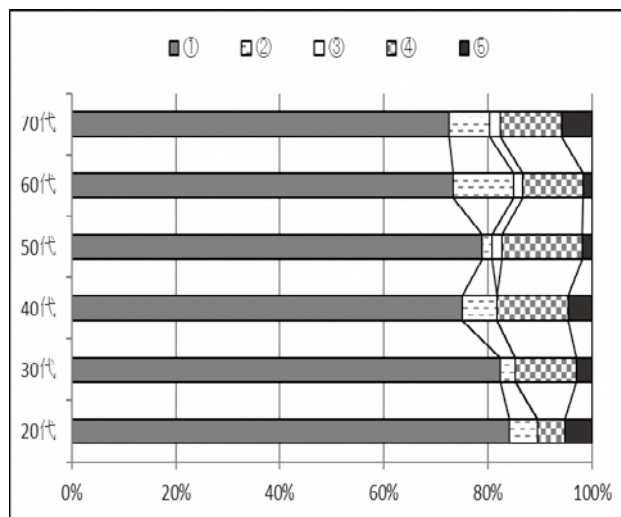
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	本人の意思を尊重する	201	76.7%	73.0%
②	世間の手前、結婚させたくない	17	6.5%	7.9%
③	絶対に結婚させたくない	3	1.1%	1.6%
④	わからない	32	12.2%	14.5%
⑤	無回答	9	3.4%	3.1%
		N= 262	100.0%	100.0%



「本人の意志を尊重する」という人は前回より3.7ポイント増え、76.7%の人がこの考えを支持しています。「世間の手前、結婚させたくない」が6.5%、「絶対に結婚させたくない」が1.1%と共に前回より減少しています。

【年代別】 (人)

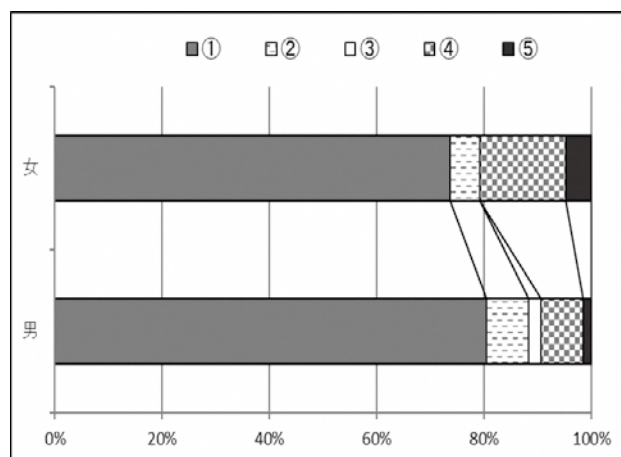
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	本人の意思を尊重する	16	28	33	41	44	37	2
②	世間の手前、結婚させたくない	1	1	3	1	7	4	0
③	絶対に結婚させたくない	0	0	0	1	1	1	0
④	わからない	1	4	6	8	7	6	0
⑤	無回答	1	1	2	1	1	3	0



「本人の意思を尊重する」という考えはどの世代も7割を超え、特に20代以下、30代は8割を超えています。

【男女別】 (人)

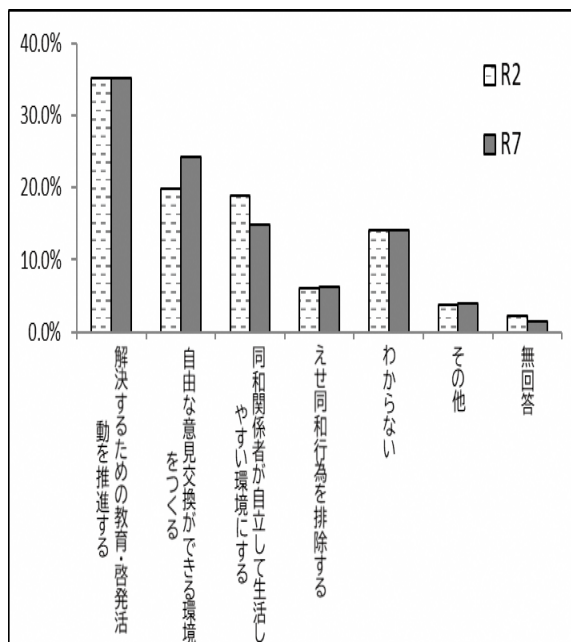
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	本人の意思を尊重する	103	92	5	1
②	世間の手前、結婚させたくない	10	7	0	0
③	絶対に結婚させたくない	3	0	0	0
④	わからない	10	20	1	1
⑤	無回答	2	6	1	0



男女別にみると、「本人の意思を尊重する」は男性が80.5%で、女性は73.6%と、男性が6.9ポイント上回っています。

問13 同和問題を解決するために、今後どのようなことが必要だと思いますか。

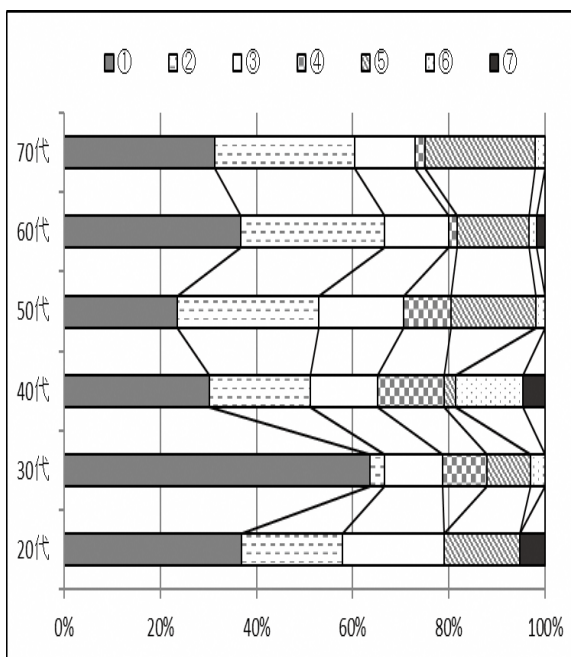
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	解決するための教育・啓発活動を推進する	90	35.2%	35.2%
②	自由な意見交換ができる環境をつくる	62	24.2%	19.8%
③	同和関係者が自立して生活しやすい環境にする	38	14.8%	18.9%
④	えせ同和行為を排除する	16	6.3%	6.0%
⑤	わからない	36	14.1%	14.2%
⑥	その他	10	3.9%	3.8%
⑦	無回答	4	1.6%	2.2%
		N = 256	100.0%	100.0%



同和問題の解決に対しては、「解決するための教育・啓発活動を推進する」が前回同様35.2%で最も高くなっています。続いて「自由な意見交換ができる環境をつくる」が24.2%で、前回より4.4ポイント高くなっています。「同和関係者が自立して生活しやすい環境にする」は14.8%で、前回より4.1ポイント低くなっています。

【年代別】

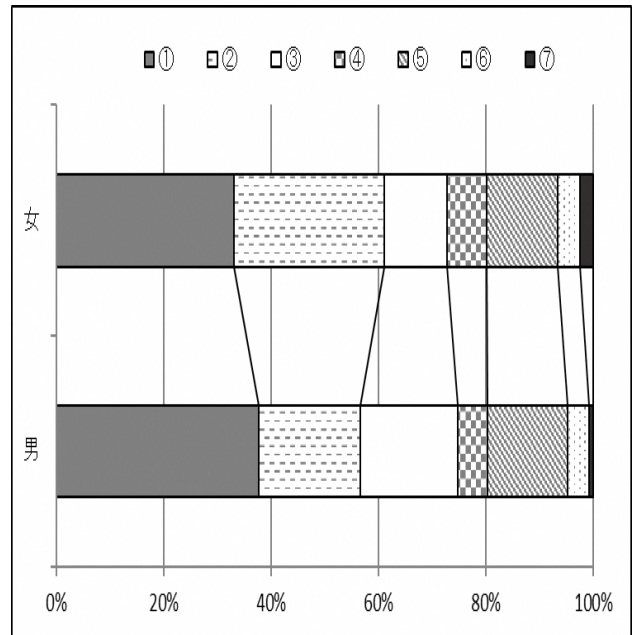
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	解決するための教育・啓発活動を推進する	7	21	13	12	22	15	0
②	自由な意見交換ができる環境をつくる	4	1	9	15	18	14	1
③	同和関係者が自立して生活しやすい環境にする	4	4	6	9	8	6	1
④	えせ同和行為を排除する	0	3	6	5	1	1	0
⑤	わからない	3	3	1	9	9	11	0
⑥	その他	0	1	6	1	1	1	0
⑦	無回答	1	0	2	0	1	0	0



「解決するための教育・啓発活動を推進する」は、30代の63.6%が最も高く、50代以外は一番高い数値となっています。50代の一番多い回答は「自由な意見交換ができる環境をつくる」で、29.1%となっています。

【男女別】 (人)

No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	解決するための教育・啓発活動を推進する	48	40	2	0
②	自由な意見交換ができる環境をつくる	24	34	2	2
③	同和関係者が自立して生活しやすい環境にする	23	14	1	0
④	えせ同和行為を排除する	7	9	0	0
⑤	わからない	19	16	1	0
⑥	その他	5	5	0	0
⑦	無回答	1	3	0	0

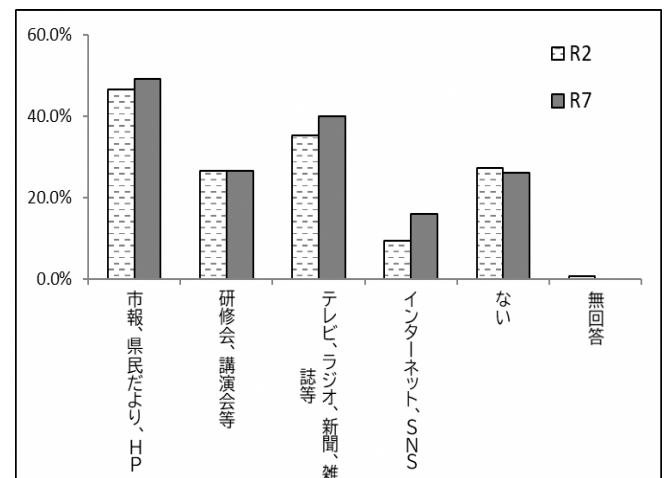


「解決するための教育・啓発活動を推進する」「自由な意見交換ができる環境をつくる」という考えが男女ともに多く、二つを合わせると男性で56.7%、女性で61.1%となっています。

問14 県や市の人権・同和問題啓発活動について、あなたは見たり聞いたり読んだりしたことがありますか。

(※複数回答につき、合計は100%にならない。)

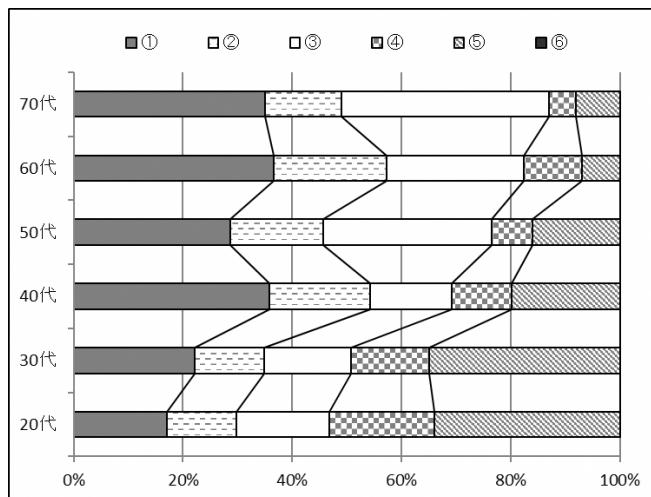
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	市報、県民だより、HP	162	49.1%	46.6%
②	研修会、講演会等	88	26.7%	26.7%
③	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	132	40.0%	35.4%
④	インターネット、SNS	53	16.1%	9.4%
⑤	ない	86	26.1%	27.2%
⑥	無回答	0	0.0%	0.8%
		N= 330		



「市報、県民だより、HP」が今回も49.1%と最も多く、次いで「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が40.0%と続いています。「インターネット、SNS」が前回より6.7ポイント増加しています。「見たり聞いたりしたことがない」と答えた人が依然として26.1%あり、啓発活動を工夫しながら更に推進する必要があります。

【年代別】 (人)

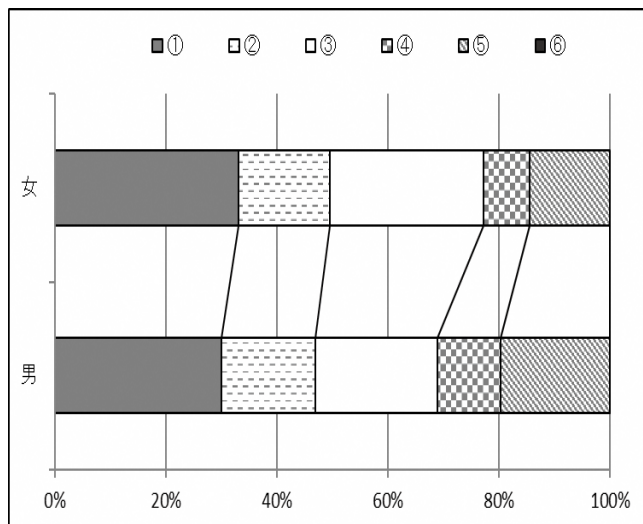
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	市報、県民だより、HP	8人	14人	29人	27人	48人	35人	1人
②	研修会、講演会等	6人	8人	15人	16人	27人	14人	2人
③	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	8人	10人	12人	29人	33人	38人	2人
④	インターネット、SNS	9人	9人	9人	7人	14人	5人	0人
⑤	ない	16人	22人	16人	15人	9人	8人	0人
⑥	無回答	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人



人権・同和問題の各種啓発活動について「見たり聞いたりしたことがない」との回答では、20代以下が34.0%、30代が34.9%であるのに対し、40代以上は20%以下となっています。

【男女別】 (人)

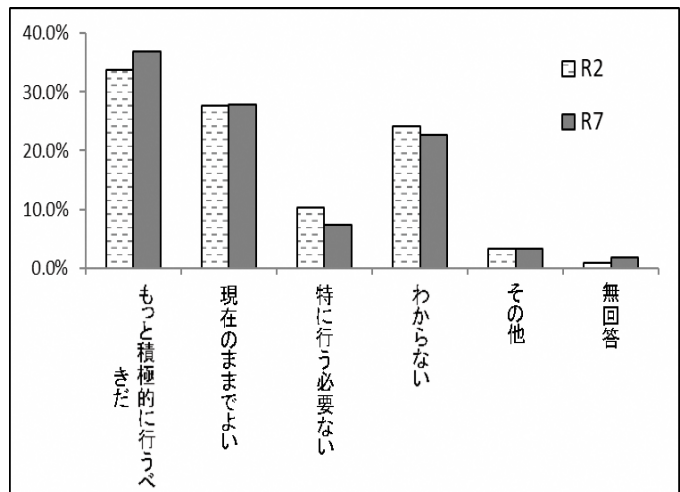
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	市報、県民だより、HP	76	80	4	2
②	研修会、講演会等	43	40	5	0
③	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	56	67	7	2
④	インターネット、SNS	29	20	4	0
⑤	ない	50	35	1	0
⑥	無回答	0	0	0	0



男女とも多い方から「市報、県民だより、HP」「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」「研修会、講演会等」の順になっています。「インターネット、SNS」と答えている人は男女とも1割程度で、前回より増加しています。

問15 学校や地域における人権・同和教育は、今後どうすべきだと思いますか。

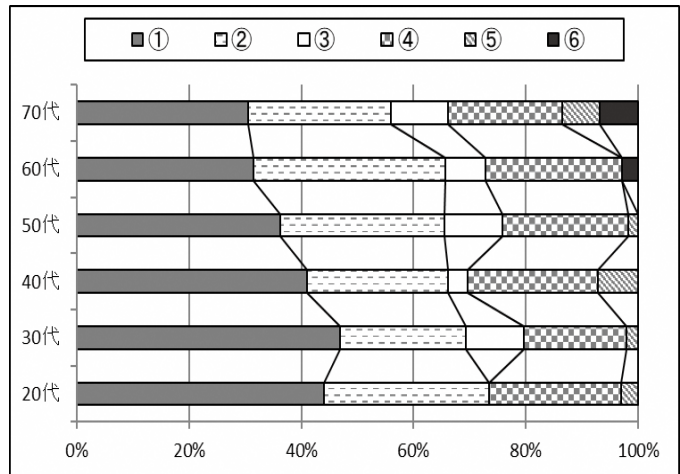
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	もっと積極的に行うべきだ	122	37.0%	33.8%
②	現在のままでよい	92	27.9%	27.7%
③	特に行う必要ない	24	7.3%	10.2%
④	わからない	75	22.7%	24.2%
⑤	その他	11	3.3%	3.3%
⑥	無回答	6	1.8%	0.8%
N=		330	100.0%	100.0%



学校や地域における人権・同和教育は「もっと積極的に行うべきだ」が37.0%と前回より3.2ポイント増加しています。逆に「必要ない」が前回より2.9ポイント減少しています。

【年代別】 (人)

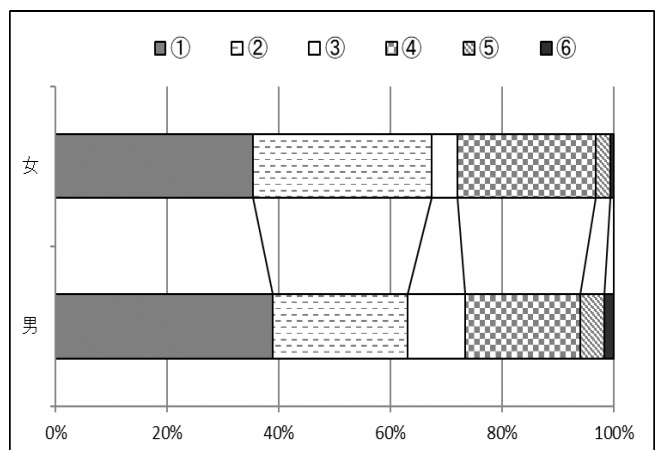
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	もっと積極的に行うべきだ	15	23	23	21	22	18	0
②	現在のままでよい	10	11	14	17	24	15	1
③	特に行う必要ない	0	5	2	6	5	6	0
④	わからない	8	9	13	13	17	12	3
⑤	その他	1	1	4	1	0	4	0
⑥	無回答	0	0	0	0	2	4	0



学校や地域における人権・同和教育を「もっと積極的に行うべきだ」がどの世代も3割以上と高い割合になっています。「現在のままでよい」と考える人も、どの世代も2割から3割程度となっています。

【男女別】 (人)

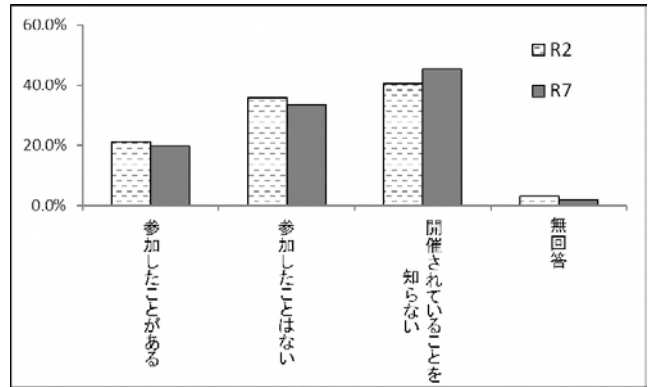
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	もっと積極的に行うべきだ	64	54	4	0
②	現在のままでよい	40	49	2	1
③	特に行う必要ない	17	7	0	0
④	わからない	34	38	2	1
⑤	その他	7	4	0	0
⑥	無回答	3	1	3	0



「もっと積極的に行うべきだ」は男性が38.8%、女性が35.3%でやや男性が多くなっています。「現在のままでよい」という考えは、男性が24.2%、女性が32.0%で7.8ポイントの差があります。「必要ない」という考えは、男性で10.3%、女性で4.6%の割合になっています。

問16 人権・同和問題に関する研修会・講演会等に参加したことがありますか。

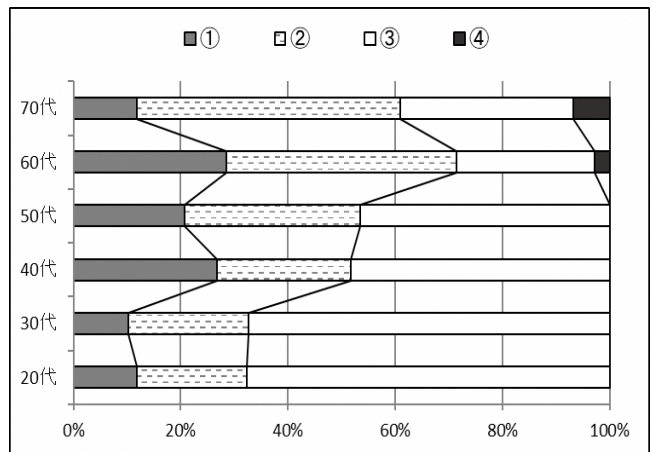
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	参加したことがある	65	19.7%	20.9%
②	参加したことはない	110	33.3%	35.6%
③	開催されていることを知らない	149	45.2%	40.5%
④	無回答	6	1.8%	3.1%
		N= 330	100.0%	100.0%



研修会・講演会等に「参加したことがある」割合は19.7%で、前回とあまり変わりません。「開催されていることを知らない」が45.2%と前回よりも増えており、周知方法が今後の課題と言えます。

【年代別】 (人)

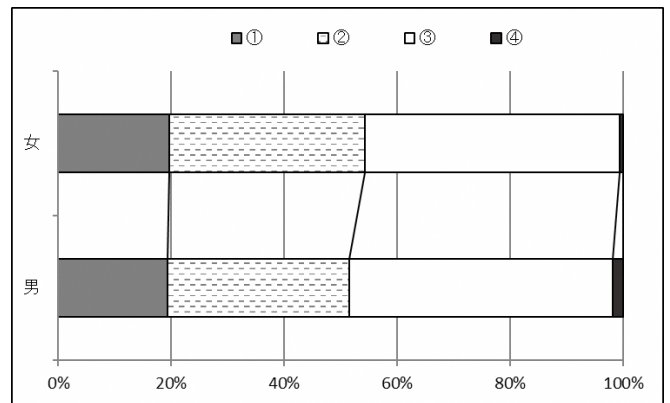
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	参加したことがある	4	5	15	12	20	7	2
②	参加したことはない	7	11	14	19	30	29	0
③	開催されていることを知らない	23	33	27	27	18	19	2
④	無回答	0	0	0	0	2	4	0



「開催されていることを知らない」割合は、世代が下がるごとに高くなり、30代以下の世代では6割以上となっています。「参加したことがある」割合が高かったのは、60代、40代という結果になっています。

【男女別】 (人)

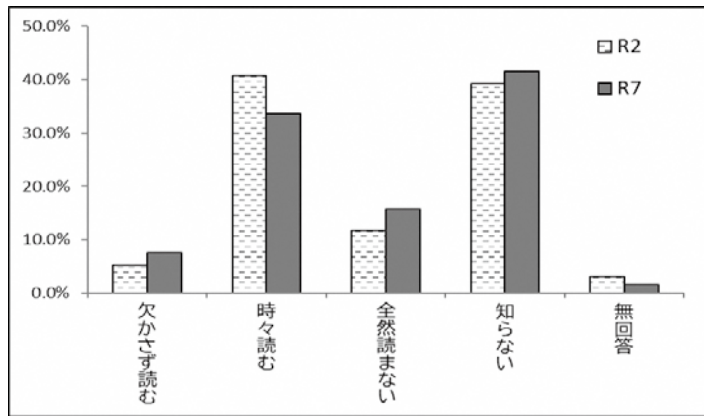
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	参加したことがある	32	30	3	0
②	参加したことはない	53	53	2	2
③	開催されていることを知らない	77	69	3	0
④	無回答	3	1	2	0



男女別にみると、「参加したことがある」割合は、女性が19.6%、男性が19.4%でどちらも約2割です。「参加したことがない」女性は34.6%、男性は32.1%、「開催されていることを知らない」は女性45.1%、男性46.7%となっています。

問17 広報かしまの「ひろげよう人権の輪」を知っていますか。読まれたことがありますか。

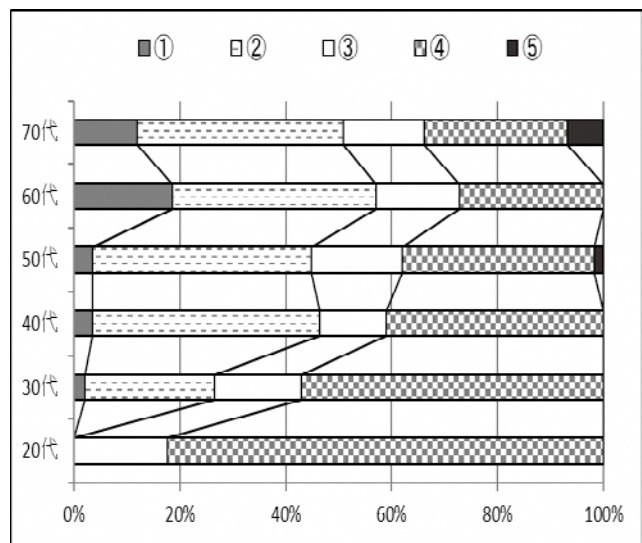
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	欠かさず読む	25	7.6%	5.3%
②	時々読む	111	33.6%	40.7%
③	全然読まない	52	15.8%	11.7%
④	知らない	137	41.5%	39.2%
⑤	無回答	5	1.5%	3.1%
N=		330	100.0%	100.0%



「欠かさず読む」と「時々読む」を合わせると41.2%となり、前回調査より減少しています。「全然読まない」15.8%と「知らない」41.5%を合わせると5割を超えています。

【年代別】 (人)

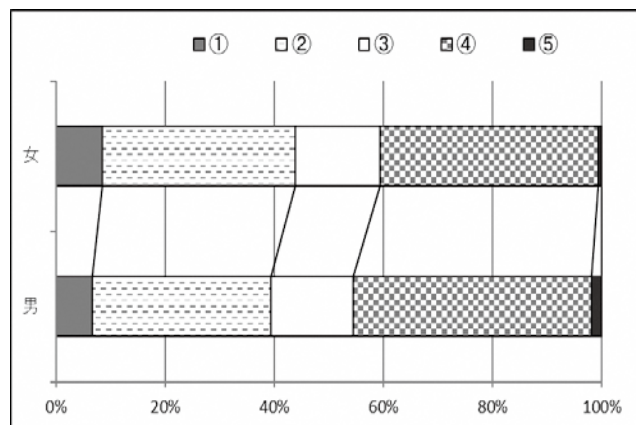
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	欠かさず読む	0	1	2	2	13	7	0
②	時々読む	0	12	24	24	27	23	1
③	全然読まない	6	8	7	10	11	9	1
④	知らない	28	28	23	21	19	16	2
⑤	無回答	0	0	0	1	0	4	0



40代より高い世代では「欠かさず読む」「時々読む」を合わせると半数程度となっています。しかし、20代以下では「欠かさず読む」「時々読む」と答えた人はいませんでした。さらに、「知らない」という回答は8割を超える結果となっています。

【男女別】 (人)

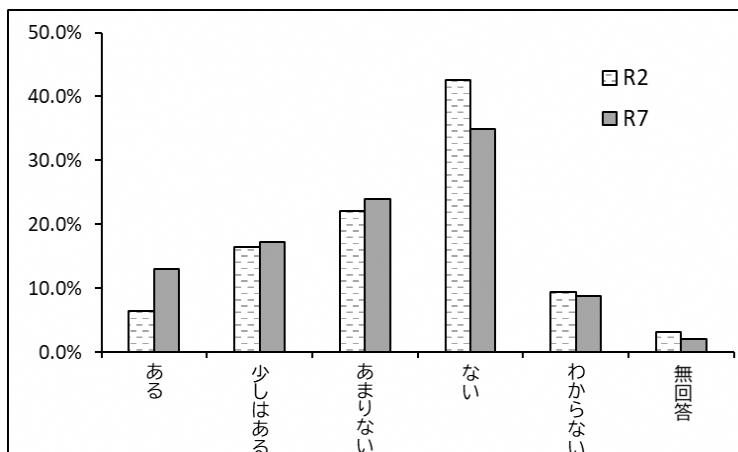
No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	欠かさず読む	11	13	1	0
②	時々読む	54	54	3	0
③	全然読まない	25	24	2	1
④	知らない	72	61	3	1
⑤	無回答	3	1	1	0



男女別にみると、「欠かさず読む」「時々読む」を合わせると、女性が43.8%、男性が39.4%です。「全然読まない」「知らない」を合わせると、女性は55.5%で男性の58.8%より若干少なくなっています。

問18 あなたは、これまでに自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。

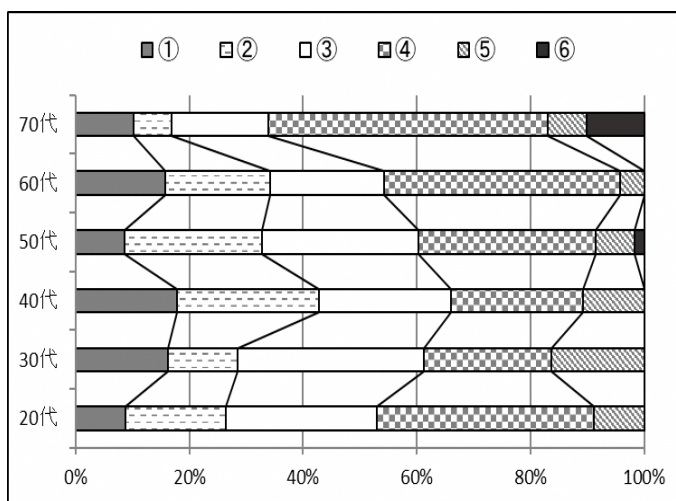
No.	回答項目	回答人数	R7	R2
①	ある	43	13.0%	6.4%
②	少しはある	57	17.3%	16.5%
③	あまりない	79	23.9%	22.1%
④	ない	115	34.8%	42.5%
⑤	わからない	29	8.8%	9.4%
⑥	無回答	7	2.1%	3.1%
N=		330	100.0%	100.0%



「ない」が34.8%で一番高い割合となっていますが、前回より7.7%減少しています。「ある」「少しはある」を合わせると、30.3%と、前回より7.4ポイント増加しています。

【年代別】 (人)

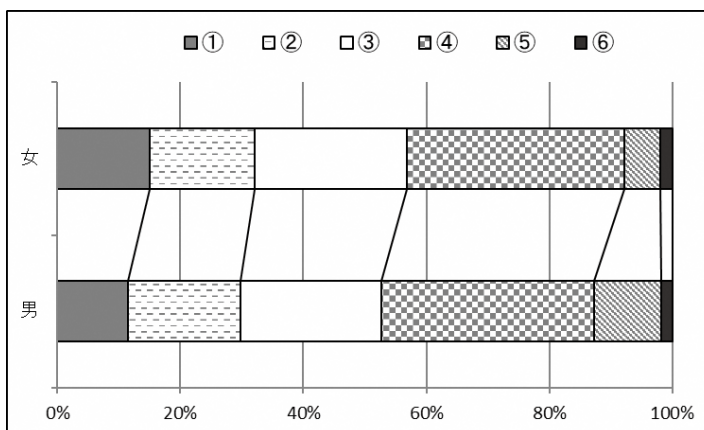
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	ある	3	8	10	5	11	6	0
②	少しはある	6	6	14	14	13	4	0
③	あまりない	9	16	13	16	14	10	1
④	ない	13	11	13	18	29	29	2
⑤	わからない	3	8	6	4	3	4	1
⑥	無回答	0	0	0	1	0	6	0



自分の人権が侵害されたと感じたことが「ある」または「少しはある」が、70代以外は2割を超えており、40代は42.8%と高い数値です。「ない」は60代以上で高く、4割を超えています。

【男女別】 (人)

No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	ある	19	23	1	0
②	少しはある	30	26	1	0
③	あまりない	38	38	2	1
④	ない	57	54	3	1
⑤	わからない	18	9	2	0
⑥	無回答	3	3	1	0

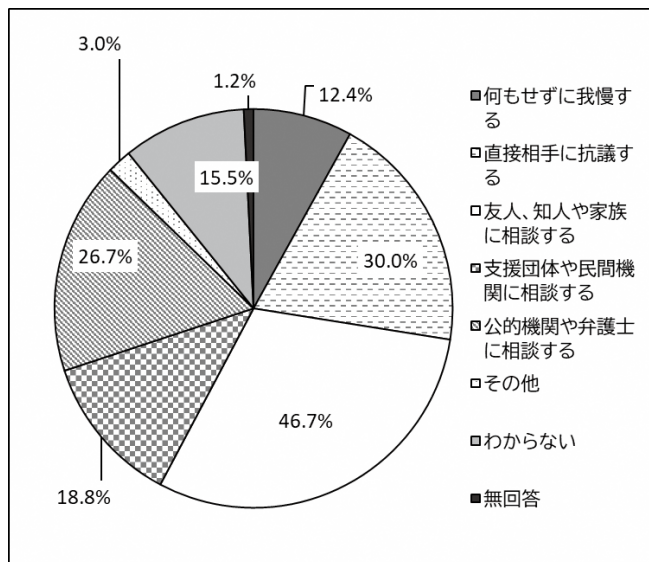


「あまりない」「ない」を合わせると男女ともに約6割となっています。「ある」「少しはある」を合わせると男女ともに約3割となっています。

問19 あなたは、自分の人権が侵害された場合どうしますか。

(※複数回答につき、合計は100%にならない。)

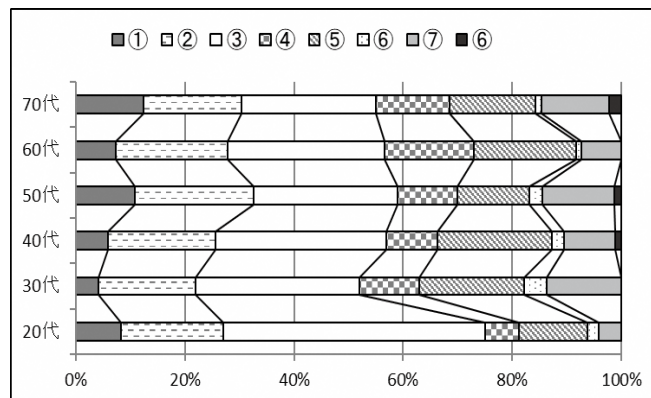
No.	回答項目	回答人数	割合
①	何もせずに我慢する	41	12.4%
②	直接相手に抗議する	99	30.0%
③	友人、知人や家族に相談する	154	46.7%
④	支援団体や民間機関に相談する	62	18.8%
⑤	公的機関や弁護士に相談する	88	26.7%
⑥	その他	10	3.0%
⑦	わからない	51	15.5%
⑧	無回答	4	1.2%
		N = 330	



「友人、知人や家族に相談する」が46.7%と一番高くなっています。「直接相手に抗議する」が30.0%、「公的機関や弁護士に相談する」が26.7%と、割合が前回より共に倍増しています。

【年代別】 (人)

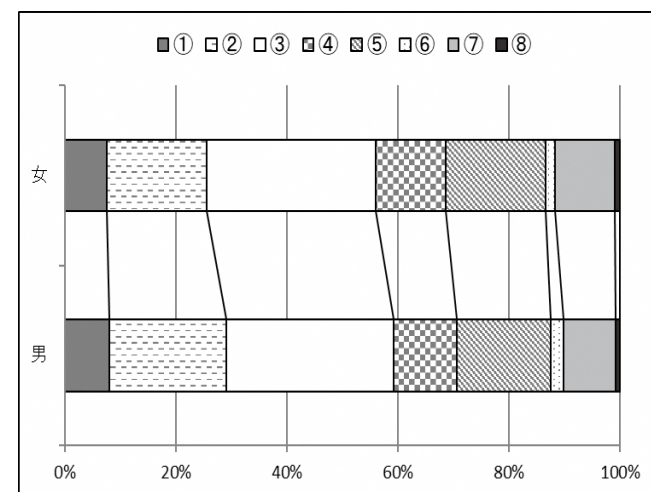
No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	何もせずに我慢する	4	3	5	9	9	11	0
②	直接相手に抗議する	9	13	17	18	25	16	1
③	友人、知人や家族に相談する	23	22	27	22	35	22	3
④	支援団体や民間機関に相談する	3	8	8	9	20	12	2
⑤	公的機関や弁護士に相談する	6	14	18	11	23	14	2
⑥	その他	1	3	2	2	1	1	0
⑦	わからない	2	10	8	11	9	11	0
⑧	無回答	0	0	1	1	0	2	0



「友人、知人や家族に相談する」は、20代以下が47.9%と一番高く、次いで40代が31.4%です。「我慢する」も各世代4~12%と一定数の回答があり、相談に関する更なる啓発の必要性がうかがえます。

【男女別】 (人)

No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	何もせずに我慢する	20	18	3	0
②	直接相手に抗議する	52	43	3	1
③	友人、知人や家族に相談する	75	73	4	2
④	支援団体や民間機関に相談する	28	30	3	1
⑤	公的機関や弁護士に相談する	42	43	3	0
⑥	その他	6	4	0	0
⑦	わからない	23	26	2	0
⑧	無回答	2	2	0	0

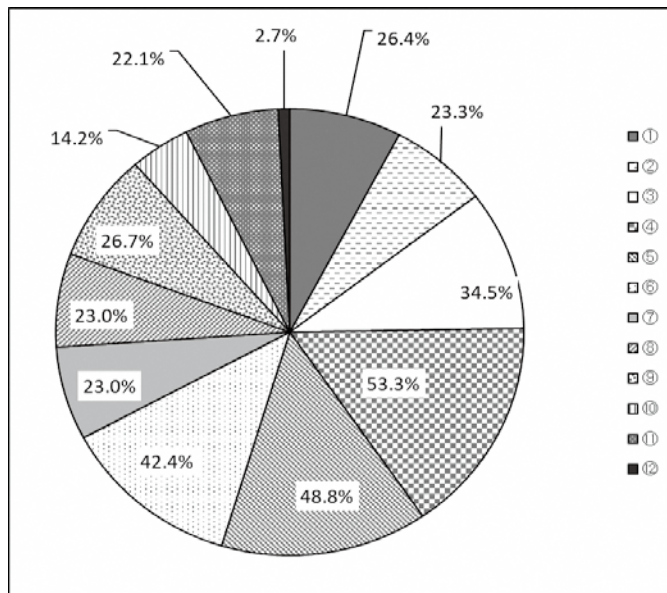


「友人、知人や家族に相談する」が男女共に一番多く、約3割となっています。「直接相手に抗議する」は、男性が21.0%で女性の18.0%に比べ3ポイント高くなっています。

問 20 人権問題に関する法律のうち、内容を少しでも知っているものはどれですか。

(※複数回答につき、合計は 100%にならない。)

No.	回答項目	回答人数	割合
①	部落差別解消推進法	87	26.4%
②	ヘイトスピーチ解消法	77	23.3%
③	障がい者差別解消法	114	34.5%
④	児童虐待防止法	176	53.3%
⑤	いじめ防止対策推進法	161	48.8%
⑥	男女共同参画社会基本法	140	42.4%
⑦	ハンセン病問題解決促進法	76	23.0%
⑧	子どもの貧困対策推進法	76	23.0%
⑨	高齢者虐待防止法	88	26.7%
⑩	人権教育・啓発推進法	47	14.2%
⑪	いずれの法律も知らない	73	22.1%
⑫	無回答	9	2.7%
		N=	330

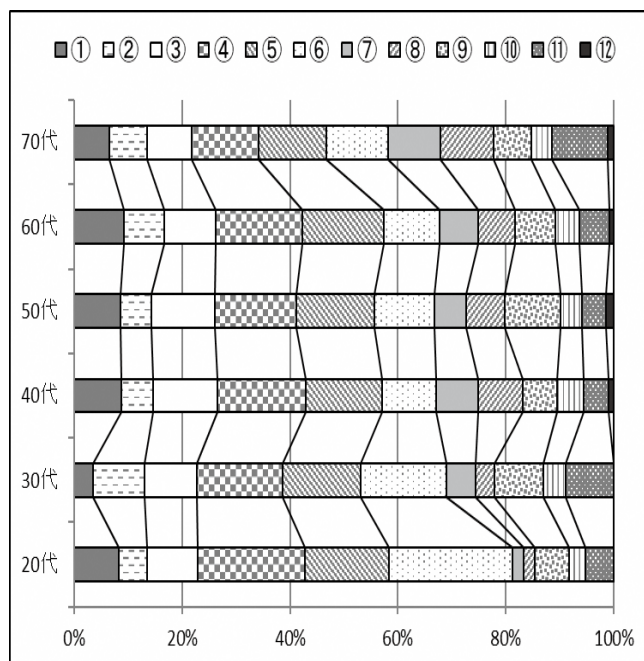


割合が高い方から「児童虐待防止法」は53.3%、「いじめ防止対策推進法」は48.8%、続いて「男女共同参画社会基本法」が42.4%、「障がい者差別解消法」が34.5%となっています。

【年代別】

(人)

No.	回答項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
①	部落差別解消推進法	8	5	19	19	23	12	1
②	ヘイトスピーチ解消法	5	14	13	13	19	13	0
③	障がい者差別解消法	9	14	26	26	24	15	0
④	児童虐待防止法	19	23	36	34	40	23	1
⑤	いじめ防止対策推進法	15	21	31	32	38	23	1
⑥	男女共同参画社会基本法	22	23	22	25	26	21	1
⑦	ハンセン病問題解決促進法	2	8	17	13	18	18	0
⑧	子どもの貧困対策推進法	2	5	18	16	17	18	0
⑨	高齢者虐待防止法	6	13	14	23	19	13	0
⑩	人権教育・啓発推進法	3	6	11	9	11	7	0
⑪	いずれの法律も知らない	5	13	10	10	14	19	2
⑫	無回答	0	0	2	3	2	2	0

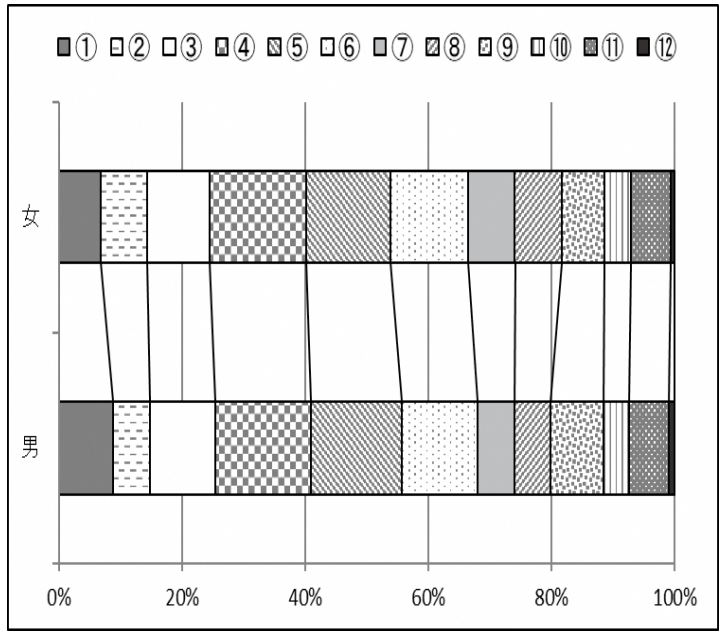


「児童虐待防止法」はどの年代も15%程度の人が「知っている」と回答しています。20代以下の世代のみ、一番多い回答が「男女共同参画社会基本法」となっています。

【男女別】

(人)

No.	回答項目	男	女	その他	回答しない
①	部落差別解消推進法	48	37	2	0
②	ヘイトスピーチ解消法	33	42	1	1
③	障がい者差別解消法	58	55	0	1
④	児童虐待防止法	85	86	4	1
⑤	いじめ防止対策推進法	81	75	3	2
⑥	男女共同参画社会基本法	67	69	3	1
⑦	ハンセン病問題解決促進法	33	42	0	1
⑧	子どもの貧困対策推進法	32	42	1	1
⑨	高齢者虐待防止法	47	38	2	1
⑩	人権教育・啓発推進法	23	23	0	1
⑪	いずれの法律も知らない	35	36	2	0
⑫	無回答	5	3	1	0



男女で大きな違いはみられませんでした。

あ と が き

21世紀は「人権の世紀」と言われています。人権とは、すべての人が平等に尊重され、守られるべき普遍的な価値であり、私たちの社会の基盤となるものです。

日常生活においても、私たちは、性別、年齢、国籍、障がいの有無、社会的背景などに関わらず、偏見や差別を受けることなく生きる権利を持っています。しかし、私たちの周りには同和問題をはじめ様々な差別や人権侵害が今なお存在しており、社会全体で取り組むことが必要です。

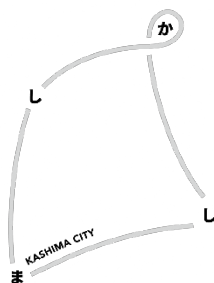
最近では、特にインターネット上での差別が問題になっており、匿名性を悪用した誹謗中傷や差別的な発言が増えています。こうした行為は人権を侵害するだけでなく、個人の尊厳を大きく損なうものであり、深刻な社会的課題といえます。このような偏見や差別を解消するためには、人権や同和問題に関する教育や啓発活動をより一層充実し、効果的に推進することが必要です。

鹿島市では、こうした教育や啓発活動の基礎資料とするため、平成7年から5年ごとに「人権・同和問題に関する市民意識調査」を行ってきました。今回は令和7年7月に調査を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

この報告書が、市民の人権や同和問題に対する関心や意識を高め、課題解決に取り組むきっかけになればと願っています。

鹿島市としても、この調査結果を基に、より効果的な人権教育・啓発に関する施策を推進していきたいと考えています。

最後になりますが、本調査にご協力いただきました市民の皆さまに、厚くお礼を申し上げます。



令和8年3月

鹿島市（人権・同和対策課）

鹿島市教育委員会（生涯学習課）

